

# 「鶴人」

作

松村武

持統帝・聖武帝（首）

八嶋智人

元明帝（阿閑）

蜂谷真未

文武帝（輕）・首〇

秋山遊楽

元正帝（氷高）

田原靖子

吉備

夏目れみ

長屋王

久保田武人

光明皇后（安宿）

梶野春菜

孝謙帝のち称徳帝（阿部）

高木友葉

藤原不比等・藤原仲麻呂

亀岡孝洋

県犬養（のち橘）三千代

藤田記子

みやこ（のち藤原宮子）

赤名萌

与兵衛（のち道鏡）

曾田昇吾

うんず（のち真備）

山崎樹範

そうど（橘諸兄）

千代田信一

かぐや

長谷部洋子

みみなし

茂手木桜子

うねび

えびねひさよ

でなり（のち玄昉）

荒谷清水

大伴子虫

柳瀬めいみ

謎の助人・中臣東人

福久聡吾

屍楽人・行基

松村武

屍女歌人

スガオロペサチヅル

# 1 暮園

戦の跡

折り重なるいくつもの死体の上を冷たい風が通り過ぎる

屍達が煽られるように立ち上がり蠢き群れていく

屍楽人と屍女歌人が歌い語り始める

屍女歌人

♪滴る心地 紅の 鋼サビゆく 千歳雨 浴びて彩る 鶴千年亀万年

屍楽人

驟雨に煙る古戦場は破れぬはずの不破の関、破れし名残にございます。敗れしオオトモ皇子は都もろとも淡海の底へ沈み、大いなるオオアマの大王の時代がヤマトの地にて幕を開けた。このオオアマの大王を、影に日向に叱咤激励をもって支え続けたのが皇后ウノノサハラ。大王の死後、我が子クサカベを後継ぎにせんとし、腹違いの兄弟、オオツ皇子をあらぬ罪で死に追い込むそのあからさまな執着に人々は慄いた。ところが肝心のクサカベ皇子は急死。結局その忘れ形見、まだ幼い孫のカル皇子が成人するまでと、自ら中継ぎの帝として女ながらに即位なされた。これぞ太陽神アマテラスにも比すべき神々しさ、持統帝におわします

屍女歌人

♪春すぎて夏きにけらし白妙の衣干すてふ天の香具山

山車のように巨大な自分の像を背に、老いて杖歩きもままならぬ持統帝が仰々しく登場  
女官筆頭の県犬養三千代が傍に控える

持統

三千代さん、三千代さん

三千代

どうされましたか？どこか痛むところがありますか？

持統

三千代さん、違うの

三千代

持統

三千代

持統

三千代

持統

三千代

持統

三千代

持統

三千代

持統

三千代

持統

三千代

持統

三千代

帝、「さん」いらないます。畏れ多いですからホント、私ごときに

三千代さん、聞いて。私わかるのよ、もう長くないのよ

三千代でいいんです、もしくは、「おい」とかでも全然いいのです

三千代さん、よく聞いて。言ってる内容をよく聞いて、私もう長くはない…

もしくは呼びかける必要もないんですよ。帝がこの世で一番なんですから。存分に好きにしゃべっていただければ。こちらが全部汲み取りますから、ね？今後「さん」づけ禁止、どうしました？具合悪いの？

聞いてくれないんだもの

またすねちゃいましたか？

私の話を聞かないのは三千代さんだけだよ

え？誰？誰ですか？「さん」づけ禁止ですよ

だからね、私もう絶対長くは…

はい！終わり。愚痴撲滅。体によくありませんよ。楽しみなことだけ考えましょう

楽しみなことなんて何一つ…

可愛いお孫様の行く末は？

ああ、それむしろ！むしろ未だ幼いカルさんの行く末を考えると余計に…今ここで私が倒れ

たらあの子の行く末は…

はい！仮定の話にはお答えを差し控えていただきます

三千代さん、私が死んでもあの子のことを…

はい「さん」ダメ。禁止破りました、罰則です、お昼寝の刑だ。（持統を退場させる）おい、

お休み前のお薬をもて！

何かを木簡に筆で書きながら隅から覗いている藤原不比等

三千代

いやだ。覗き見はいかにも無礼ですね不比等様。そんなに帝の様子がお気にかかりますか？  
その王宮第一のキレイキレイのおつむで、また何事かややしきことをお企み？

不比等

また、とは心外な

三千代

舎人の殿方の考えることはほとんど存じ上げませぬが、どうぞ、帝の心をお騒がせになるようなことだけはご勘弁くださりませ

不比等

さようなことは決して

三千代

今帝が倒れるわけにはいかないのです。皇太子カル様がまだあの年齢では

不比等

よくわかっております。政に空白が生じれば必ずそれを好機と、王位を狙う王族のお歴々が  
一斉に蠢かれましょうから

三千代

帝にはいつまでも健やかにいてもらわねば

不比等

そのために、あなたが密かに命じられている役割についても、よく存じていますよ、三千代  
さん

三千代

…え？何のことかしら？

不比等

赤い壁に覆われた薬園のこと

咄嗟に去ろうとする三千代の手をとり不比等が木簡を握らせる

三千代

ちよつと…え？何ですかこれは？え？あなたは帝のご様子を影からこっそり覗いて一体何を  
して…え？何ですかこの絵は？いやだわ、何か…いやらしいわ、何か、これは人の顔です  
か…

不比等

あなたですよ、三千代さん

三千代

え？

[illegible]

私は帝の様子を見ていたのではない。あなたの様子を見ていたんです  
え？何ですか？

そしてあなたに見とれていたんです  
ちよつと…え？何？

気がつけば、筆がほとばしっていた

私、こないやらしい顔してますか？

不器用な男でございます

あの藤原不比等様のお言葉とも思えない

面目なきじと

でも……勢いがあるわ

運もございます。人を見る目もございます

…私、主人も、子供だっているんですよ

私もです。妻も子も何人もいる

何なんですか？

わかりません

お互い、かなりの中年ですよ

みつともないですね

みつともない、みつともない！いい年したおじさんお婆さんが、大胆不敵に、ギラギラと……

♪ギラギラと キレキレと  
霧暮れかかる裏道の  
珍竹林の 秘密の花園

畝傍、耳成、香具山の大和三山囲みし麓、藤原京。その左京を外れた荒野の一角に、持統帝

の密命を受けた県大養三千代が取り仕切る秘密の薬園がございます。赤い土堀に囲まれたその園を、知る人は暮れ行く園、暮園と呼ぶ。そこでは畏れ多くも帝の寿命を先へ先へと延ばすため、長寿の神秘の研究が日々なされておりました

二人で暮園を巡る不比等と三千代

池があつて花畑もある公園のような薬園を大勢の老人たち（被験体Ⅱ屍楽人たち）がゆっくり徘徊している  
家屋の中では薬を飲んでゐる老人がいる。中には苦しんで痙攣している者もいる

寿命が尽きた者の死体が鐘の音とともに運び出されていく

三人の官女たちがいろんな場所でかいがいしく働きながら、上司の三千代が偉い男連れで現れたことを気にしている

三千代

こちらですよ、不比等さん

不比等

いいんですか三千代さん？何やらジロジロと見られている気がします

三官女

うふふふ

三千代

大丈夫です。気になさらないで。私のすることとやかく申すような者はここにはおりません。さあさあ

不比等

おお、これは！壁の向こうにかように色とりどりの花畑が隠されているとは

三千代

ここでは百種以上の薬草を育ててゐるんですよ。日当たりの加減に色々と変化を持たせるため、場所を区切って試しています。唐渡りの珍しいものが半分以上ね。あ、お気をつけて。うっかり素手で触れるとかぶれるものもあります

三官女

うふふふ

三千代

煎じればそのまま劇薬にもなるものも。大切なのは調合です。これら何種類もの薬草を混ぜ合わせて配分を細かく試し、長寿に効く薬を作る。気の遠くなるような作業ですけど、他ならぬ帝の御為。毎日皆で取り組んでもらってます。（働いているかぐやに）ご苦労様、かぐやさん、ご苦労様

かぐや

ご苦労様でございます！

不比等

明るくていい職場ですね。ここを仕切る三千代さんの人柄でしょうか

三千代           さん、づけはそろそろ…お互い禁止ということで  
不比等           そろそろ、そうなのかな

うねび・みみなし うふふ

三千代           こら、うねびさん、みみなしさん、あんたたち、ふざけてないでちゃんと仕事しなさい

うねび、みみなし はい、三千代さま、うふふ

不比等           あの女たちは、年季の入った妖精か何かですか

三千代           失礼ですわよ

うねび、みみなしは池の畔で笛と太鼓を奏でる

不比等           ああ、楽器を操る楽人か

三千代           でもただの楽人じゃないのよ

二人の奏でる音色に誘われ池から大きな亀が這いあがって来る

不比等           おお！

三千代           亀を焦らす音色を奏でるのよ

不比等           おお…お！この光景はまさか…噂に聞く亀の産卵か

三千代           そして貴重な亀の涙をご覧あれ

うねび、みみなしが産卵で泣く亀の涙をスポイドのようなもので採取している

不比等           なるほど亀は万年を生きる長寿の生き字引

三千代

かといって、それを万年生きて確かめた人がこの世にいてもなし

亀が雄叫びと共に産卵する

かぐやがその卵を回収する

血まみれの男が現れ、気合の声と共に亀の首を斬り落とす

男は死んだ亀を抱えて小屋へ入っていく

その小屋へかぐやは卵を運ぶ

みみなし、うねびはその小屋から亀の足や首が浸されたスープを外へ運び老人たちがそれに群がる

不比等

あの小屋は？

三千代

ああ、あそこへは近づかない方が…

包丁と亀の甲羅を持った血まみれの下男、でなりが小屋から出てきて甲羅の上に腰かける  
周りを見回してくすねた卵を呑み込み、草を噛んで一服する

不比等

ほう…

三千代

ちよつといいですか（不比等にことわって男に近づき）おい、こら、おまえ、おまえだおまえ、おめえしかないんだろ、牛みてえに草もぐもぐ噛んでるおめえだよ、おい、おめえ今、超大事な亀の卵呑み込んだろ

でなり

…呑み込んでないです

三千代

向こうから見えたんだよ

でなり

…まだいっぱいあるんですよ

三千代

だから一つくらいいいってか？



でなり  
昨日から何も食ってないんですよ

三千代  
で今食ったのか

でなり  
いや嘘だ、おとといからだ

三千代  
でも今食ったろ

でなり  
食ってないです

不比等  
三千代、さん

三千代  
その草、菜園のдарろ？

でなり  
その辺の草っすよ

三千代  
その辺の草、そんなにうまそうに食うのか？

でなり  
草だから全然うまくないっすよ

三千代  
なめんな

でなり  
腹減ってたら何でも食べますよ

三千代  
おめえ貴重な長寿のエキス、どさくさで身体に入れてんじゃねえぞ！

でなり  
んなことは知らねえよ！こっちだって腹減ってギリギリなんだよ！

三千代  
何だところ

不比等  
三千代、さん

でなり  
おかしいだろ！どんな仕事だってよ、最低限の食事くらい出さねえと、人間は死ぬだろ？ま

でなり  
かない出せよ！

三千代  
貴様ごとき使い捨てだ。生きようと死のうと、知ったことか！

でなり  
亀一体バラバラにするのも相当体力削られんだよ！そう簡単に切れねえんだよ、皮膚も固い

し、抵抗しやがるよ、当たり前だよ、生きてんだからさ！はあ！ホントやりがいもねえし！

血まみれだし！可哀想だし！

三千代  
おめえこそ、その可哀想な亀が涙流して生み落とした命、つまみ食いしてんだろ？が！

でなり

三千代

不比等

三千代

でなり

不比等

三千代

不比等

でなり

つまみ食いじゃねえ！主食として！命の連鎖として！

不比等さん、あっちへ行きましょう。ああ、なんかすっかり台無し、台無しだわ

さん、づけまだしちやいますよね

あ、やだ、ごめんなさい、もう……おまえ、あらためてな。今、おまえを見逃すのは単純に、今、後味悪いの嫌なだけだから

何言ってつかわかんねえぞ

こいつ斬りますか？

剣が穢れます

三千代さんは、本当に心やさしい人ですね

ふざけんなよ……え？おい！

三人の官女が戻ってきてでなりに猿轡をかましてグルグル巻きにして縛る

三千代

こいつも被験体に回しましょう。このまま水一杯与えずに監禁して何日生きられるか観察対象に

かぐや

三千代

うねび

こんな下賤な男でも、いやこいう男だからこそ、獣の性に思いが至る部分もあると言いますか

三千代

みみなし

獣の性？

ですから、獣の命のやり取りに関しましては、この男にこそ感じ取れる機微というものに頼る部分も少くないような次第で…

三千代

つまり亀のさばきをやらせてたわけだろ、こいつに？また代わりの奴婢を連れてくればいい

じゃないの？

かぐや  
不比等  
また出直すでしょうか

三千代  
かぐや  
ああもう、不比等さん、ごめんなさい、何だかんだ最悪で  
竹林のことも…

不比等  
竹林？

竹林はもう御覧になりましたか、お客様？

うねび  
あちらにある鶴の竹林でございます

みみなし  
この暮園では鶴の長寿の研究も進めております

かぐや  
鶴？

不比等  
ちよつと待つて、私の頭ごなしに不比等さんと勝手に話さないで

三千代  
なるほど。亀の如く万年生きずとも鶴は千年だ

うねび  
鶴は実態が実はよくわからない謎めいた鳥です。つまり、なかなかしつぽをつかませない

みみなし  
しかしだんだんわかつてきたのです、どうも鶴の長寿にはからくり仕掛けのような趣がある。

三千代  
あんた達いい加減にしなさいよ

かぐや  
そのことに最初に気付いたのも、この、でなりだったんです

不比等  
ぜひ詳しく聞きたいものだな。三千代さんがよければですが

三千代  
はあ、私達すっかり、さん付け禁止の期を逸しましたわね

竹林と共に現れる屍たち

屍楽人

屍女楽人

この暮園の竹林には毎年季節になると、鶴の群れが舞い降りました。

♪きーっ、きーきつききー、亀は何匹、鶴は何羽だ鶴亀算

不比等  
かぐや

うねび

みみなし

三千代

でなり

ガサガサと人の気配がする

でなり

謎人

でなり

謎人

でなり

餌付けですか？

はい。鶴の長寿の秘密は、鶴の生態にあると私たちは推測し、長期にわたる観察を続けることにしました

そのためには、できるだけ自然な状態のありのままの鶴を、こちらの気配を感じさせずに観察する必要があります

でもいくら餌付けしてこの竹林に舞い降りるようにしつけても、季節が変われば鶴は飛んで行ってしまいます

それで足を細長い紐でふん縛って木に括り付けさらしたのよ。空へ飛んでも竹林を越えられないようにして、年がら年中観察できるようにね

って言ったって、その観察をするのは人だよ。結局そういう無茶苦茶な仕事は全部俺みたいなのにお鉢が回ってくる。一人で何日間も寝ずに観察するわけよ。一瞬でも目を離すなあって、そりゃこっちも必死でやるけどよ、大して何も起こらないわけよ。で、鶴も鶴で寝るわけよ。一本足で突っ立ったまま何にも動かなくなるんだよ。で、気づいたらこっちもうつらうつら船漕いで…あ！ふと目の前にいたはずの鶴がいなくなってる…あれ？紐が外れて、え？なんで？どこいった？

おい！…誰だ？

：

…あ、もしかして助っ人？

あ、はい

やっと来たよ、助っ人！ただ遅いよ遅すぎ！大変なんだよ、今、鶴がいなくなっちゃってよ、

謎人

でなり

謎人

でなり

謎人

でなり

三千代

かぐや

うねび

不比等

三千代

でなり

不比等

三千代

かぐや

うねび

みみなし

でなり

いいとこに来たよ。おまえも一緒に探してくれ

あ、はい

とにかく目を離しちゃいけないって何度も上から言われただけどさ、さすがに難しいよ一人じゃ。これは最低でも二人いて、交代で休めないと無理だつて。絶対もう一人いますつて前から申し出てて…いねえな、どこ消えたんだよ？

あ、あそこじゃないですか？

え？どこ？

あの、ほら、あそこですよ（と言いながらしれつといなくなる）

ちよつと、ちよつと待つてよ…どこだよ？どこ…あ、いた！鶴いた！捕まえ…え？あれ？あいつ？何だよ？肝心な時に何が助っ人だよバカ…ん？イヤこいつ違うよ、違う鶴だよ…おい…で結局その助っ人の姿を以後一度も見ないわけ

助っ人なんぞ認めた覚えはないぞ

そうなんですよ

我らも一体何が何やら

で、結局鶴が一羽どこかへ消えてしまったと

鶴泥棒じゃないの？その二セ助っ人が鶴を盗んで逃げたんだよところがこれが、何日かして数えてみると鶴は減ってないんだ

ほほう

何それ？

で、特に問題なしということであらためて報告をしていませんでした…でもまあ奇妙なことではありまして

それに…な…

うん…似たようなことが、その後も何回かあったんだよ

三千代  
でなり

似たようなこと？

だから、鶴が消えて、そしたらまた助っ人が現れて、その助っ人がいつのまにか消えて、結局最終的に鶴は消えてないっていう…

助っ人が現れた光景が再現される

三千代  
不比等  
でなり

何なの？

助っ人はいつも同じ奴なのか？

それが全然違うんだよ。いつも違う奴が来る

振り向いた助っ人の顔は別人（無表情なお面）である

不比等  
かぐや  
三千代  
でなり  
三千代  
でなり  
うねび  
屍楽人  
屍女歌人

ほう…不思議な話だ

よかった。このことどうも気持ち悪くて、三千代さんにどう伝えたらいいかと

…その助っ人…誰よ？

誰よって言うかだな

何よ？え？

（うなづく）

ですから、このでなりは、貴重なのです！

果たしてこの時、鶴千年の命の秘密に、彼らは触れつつあったのか

♪暮れる秋空 紫の 扉押し開け たなびく雲と 見まがう鶴が真一文字に 昼と夜との  
仲を裂く ああ 匂い立つ 暮園腐れ縁

屍たちが群がり、大きな紙で一羽の折り鶴を折る

折り鶴が夕空に飛んでいく

猟師たちの放った矢が空に描いたアーチの下を折り鶴はくぐっていく

流れ矢が足をかすめたらしく、鶴はうまく着地できずに草むらに倒れ込む

## 2 鶴の恩返し

薪を背負った百姓与兵衛がそこに出くわす（与兵衛が見つけた時から鶴は折り鶴ではなくパペット）  
与兵衛は鶴の傷ついた足を水で洗ってやり、生えていた草を噛み潰して塗ってやり、岩陰に静かに横たえる

与兵衛

明日の朝が明けるまで、ここでじっとしてんだぞ。すぐに動いちゃ治んねえからな。可哀そうに。運が悪かったな

屍楽人

いやむしろ運がよかった、のかもしれない。そうじゃなかったかもしれない。そんな百姓与兵衛と鶴の因縁の物語、ここに始まる。「鶴人」

屍女歌人

♪ちゅるっちゅっちゅっちゅ ちゅるちゅるるる ちゅるるるるーるるアアア ちゅるっちゅっちゅっちゅ ちゅるちゅるるる ちゅるるるるーるーるー

何日か後、与兵衛の暮らすそまつな小屋に、紙売りうんずが訪ねてくる

うんず

（入口外から声かける）よう！調子はどうだい、与兵衛ちゃん

与兵衛

（中から顔出して）何だよ、その質問は？調子なんて年柄年中いいわけねえだろ

うんず

質問じゃねえよ、挨拶だよ。本当、真面目馬鹿だよな、おめえは

与兵衛

うるせえ、うんず！おめえみたいなお調子者と一緒にすんな

うんず

一緒にしてねえよ。調子狂うよな。言っとくけど俺は馬鹿でも真面目でもねえから

与兵衛

知らねえよ。用がねえならとっとと帰れ

うんず

用頼んだのはおめえの方だろうが

与兵衛

ああ、そうだった

うんず

ったく、いい加減にしてくれよ、俺はこう見えて暇じゃねえんだ。一見何してる人が見えづ



与兵衛

うんず

与兵衛

うんず

与兵衛

うんず

与兵衛

うんず

与兵衛

うんず

与兵衛

うんず

与兵衛

うんず

らいが、結局俺みたいなフリーハンドでタイムフリーな人間が動きまわることで世の中は…

ああ、こ難しい話はいいんだ

全然こ難しくねえのよ

で、どうだった？

うん、まあ、結果から言うと、こうなった（銅銭の束を渡す）

え！これ、何だ！

銭だよ、知らねえのか！

そんなに一気に見たことねえ

そうだそうだ。これがあればあるだけ、何にでも交換できるんだって、銭交換の説明から入らないとダメか？

あの、パサパサした端切れが？

端切れなんて言うな。言つたら？俺が言つた通りだ。ありやっぱり相当高価な品だったよ。俺ら下々にはわからなくともな、どういうわけか王宮の皆さまにやひっぱりだこ。たこだよ。たこ。あれにな、墨で字を書くんだってよ。たこだけにハハハ！キャミっていうんだ。この野郎、えらい飯の種掘り当てたやがったな。で、どうやって手に入れた？心配すんな。出し抜こうなんて気はないよ。おまえが手に入れ俺が売る。販売、営業は任しとけ。このうんず様の専門分野だ。ハハハ、ホレ（ひょうたん出して）、祝杯だ！（家に入ろうとする）

いやいや、待て

何だよ、これくらいの贅沢いいじゃねえか？やっこさ俺たちにも、運が向いての、うんず様ってな。ささ一杯やり与兵衛

明日までもっと用意する。昼過ぎに取りに来てくれ。あとの事は任せる

何だよ？…っていうか、おめえその、キャミ、どうやって手に入れんだよ？いやそりゃ、営業としてそこは俺も知つとかないとさ

与兵衛  
うんず  
与兵衛  
うんず  
与兵衛  
うんず

うんまあそのうちな。今日は帰れ。悪いが一人で飲んでくれ  
おいおい、何だその態度は？俺が売ってきてやったんだぜ。俺が売らないと銭には…  
わかってる。感謝してるし、これからもお世話になる！  
お世話になる！って、何だよその態度、あつかましいな、おい  
とにかくまた明日。それじゃあな  
そう言って与兵衛はうちの中に消えたんですが、俺は気になって裏廻って小屋の中をこっそ  
り覗いてやったんですよ

うんずと話しているのは、手相見のそうど

そうど  
うんず  
そうど  
うんず  
そうど  
うんず

それは犯罪だなあ。どんな動機でも覗きは犯罪だからね。僕は言ったよ。はい、それで？  
女がいたんです。あの馬鹿の与兵衛にですよ。しかもこれが、いい女なんだ  
君それは本当の意味で覗きだな。よくないね。僕は言ったからね。はい、それで？  
その女がどうやら、この、紙ってヤツをね、用意する張本人みたいなんですよ  
ああ。ふうん。うむうむ。で、これはどうやって用意するわけ？  
そこがわからないんだ。その女がね、必ずこう言って奥の部屋に消えるんですよ

与兵衛の家の光景。謎の女みやこの姿

みやこ

絶対に見ないでくださいね

そうど  
うんず

それ、見てほしいんだよ  
誘ってますよね？

そうど

うんず

やらしいなあ

さすがに思うでしょ？そうど先生クラスでも。なのに与兵衛は絶対奥へは行かないんだ、あの真面目馬鹿。ああそうかいって、何なんだよ、あの二人の関係性！

そうど

でもそれ以上踏み込むのはあくまで個人的な領域になるからね

うんず

わかってますよ、プライバシーは大切です。個人の生活は他人の好奇の視線から守られないといけない。だから僕はそれ以上のアプローチを現状ペンディングしてます

そうど

しかし君は本当にこ難しい言葉を自在に操るよね

うんず

そんなことはこの際どうでもいいんです。問題は、この高価な白いキャミが、どうやって与兵衛の家に発生するのかっていう、そのプロセスじゃないですか？気になるでしょ？そうど先生クラスの方でも

そうど

うんず君さ、君は結局僕に何が言いたいの？

うんず

相談してんですよ。僕だけじゃ受け止めきれなくて。人の相談乗るのが、そうど先生のお仕事でしょ？

そうど

でも僕は君、基本は手相見るのが仕事だからさ

うんず

形だけでしょ？

そうど

ちよつと貸してみなさい（うんずが手を出す）手じゃなくて（紙をとって匂いをかいだり）

うんず

…誘ってますよね？

そうど

でもそれは…結局…大事なところは見れないんですよ？

うんず

見てはないです…僕はまだ

与兵衛の小屋の奥でみやこが一人で紙をすいている光景

与兵衛は密かにそれを覗いている

うんずがそうどとが連れ立って裏側からその光景を覗こうとしている

みやこが紙をすいている周りに徐々に屍たちが影のように群がって流れ作業で紙すきをしている  
やがて折り紙の途中みたいな形態の屍が現れ始める

折り紙は徐々に折り鶴に近づいていく

ついに人のみやこの姿は完全に消え、気が付けば大きな折り鶴が一体で紙をすいている情景に

うんず・そうど え！

屍女歌人

♪きーっ、きーきつききー、亀は何匹、鶴は何羽で鶴亀算

与兵衛

おい！（鎌を持って立っている）

うんず・そうど

うわ！

与兵衛

うんず、そうど！

うんず・そうど

はい

与兵衛

おめえら、今見たことを絶対人にしゃべんじゃねえぞ

うんず・そうど

はい

与兵衛

しゃべったら、その舌かっ切ってやつからな

うんず・そうど

はい。僕たちは何も見てません

与兵衛

そうだ。おまえたちは何も見てない。俺も何も見ていない。お互いその方が得なんだ

みやこ

（奥の部屋から疲れた感じで出てきて）あら、与兵衛さんのお友達？じゃあ、目一杯おもて

なしをしないとね

うんず

え？

与兵衛

いやいや、いいんだ、みやこ、この人たちはすぐに帰るから

みやこ

そうなの？そりゃ残念だ

与兵衛

それよりおまえ、疲れてんじゃないか？少し休んでろよ

みやこ

ありがとよ、おまえさん。だが、ちよいと仕入れに行ってくるよ

与兵衛  
みやこ

うんず  
そうど  
うんず

そんなことなら俺が行くから

そりゃあんたにや無理だよ。私がやつとくからさ。それよりお友達と町へ行つてきなよ。はい、今日はこれだけ（紙束を渡す）

おお！これだよ先生、銭の種、すすく育てとキャミをすすくツルを巻き付け上の空

飛んだ鶴の恩返し、こいつが本当の金づるだ

### 3 偽装

王宮前の広場にて星空の下、大規模な持統帝の葬儀が行われる  
貴族たちが追悼の音色を楽器で奏でながら立ち並ぶ

#### 屍楽人

かつての悲劇の皇子オオツと同様、持統女帝を母とせぬオオアマ大王の子、太政大臣タケチ皇子が病でみまかられました。時に持統帝の後釜としても名の上がる血筋も実力も確かな男の王族でした。その死をもって、ようやく緊張状態から解放された持統女帝は、当年十五歳になられた孫のカル皇子について王位を譲り、ほどなくその波乱の生涯を終えます。直系の孫へと王位を繋ぐ老いとの戦に、女帝はギリギリの執念で勝利なされたのです。カル皇子、すなわち文武帝の目の前で、持統帝の遺体は史上初めて火葬に処されました。その炎は、多感な少女ウノサララの激動の人生そのままに、激しく揺らめき夜空を焦がすのでした

♪煙になってたなびくうののサララ 星の光をかき集め 夜明けのごとき輝きの 天の叢雲（むらくも） 夜うののサララ 春すぎて 夏うののサララ 衣ほすてふ さくらさくらば

#### 屍女歌人

三千代がおおげさに号泣している。そのそばに寄り添う不比等

#### 吉備

：嫌な泣き声ね。しらじらしくて。持統のオババ様にあの人ほど引き立てられた者は他にいないというのに。橘なんて立派な苗字もいただいておいて、あれは悲しみなんてまるで感じない性質なのかしら母上？

#### あへ

吉備さん、そんな言い方をするもんじゃないよ。三千代さんは、もう何年も前から風前の灯だった先帝の命を、文武帝が即位なされるまで何とか繋いだ手柄者だ。母上がもっと早く倒れていたら、他の方が玉座について、こうしてあの子が即位することもなかったかもしれない

氷高皇女が現れる

吉備

い。それに三千代さんはそもそも、幼いカルを育てあげてくれた乳母でもあったのだし母上はあの者達に嫌悪感のひとつも感じないのですか？三千代も不比等も妻子がいる身ですよ。しかもあの年で。母上とそう変わらないじゃないですか

年は別に関係ないわ

吉備

何それ？まさか母上も何かあるわけ？

あへ

そりゃ私だって夫を失ってもうだいぶ経つしね

吉備

ちよつと、本当にやめてよね

あへ

ハハハ、ありゃしない。夫クサカベ皇子様を亡くしてから、私が思い続けた男子（おのこ）は、我が子カル皇子だけ…

あへ

氷高さん！

氷高

そのカルがようやく即位して、母上もこれでようやく、くびきから解放されたというわけだ

あへ

あなたどこ行つてたの？探したのよ

氷高

私は常に私のいるべきところにおります

あへ

先帝が天へと旅立たれるという大事な時に…

氷高

この世を確かに生きた人間が、煙に巻かれて天へと散りゆく様を、一体どんな顔して眺めているものか、そんなことをつらつら考えているうちに、ここへたどり着いてみれば、それを考える必要がすでになくなっておりました

あへ

もう、相変わらず何言ってるんだか、ひだか、だか、何だか

吉備

そんな遅刻の言い訳は通らないよ姉上、一体何を…

氷高

これまでのように墳墓に埋めて葬り奉らば、月明かり翳りし拍子なぞに、黄泉の国よりこの

世に戻ってきかねない勢いのお方。肉体が消滅する火葬を決めた者らはそれを恐れたのでありましょうか

あへ

これ氷高…

氷高

あるいは、その黄泉の国にこそオババの帝によって命蹴落とされた不運の怨霊、二上山の頂に眠るオオツ皇子然り、恨み骨髓と手ぐすね引いて仇を待ち受ける餓鬼どもがおりましよう口が過ぎる

あへ

氷高

御身を焼き尽くしてまでも、天へ空へと逃げんとしたは、持統帝自らの末期のあがきやもしれぬ…

あへ

氷高皇女（ひめみこ）、立場をわきまえなさい。しうじうしき遅刻は許してもこれだけは忘れてはならぬ。このアへは帝の生みの母。あなたと吉備は血を分けた帝の姉妹。我らは亡き母上持統帝の遺志を継ぎ、待ち望まれた文武の御世を、そこから先へと綿々と続く偉大なるオオアマの正統を、太き幹となつて支える女系の連鎖

持統帝の霊が屍達と共に地面から湧き出てあへの影となつて重なる

あへ・持統・屍

心せよ。この身は己一身にあらず。生死の境を越えて、我らの道はただ一つ

持統帝の幻影は一瞬で消える

吉備

…まるで一瞬おば様が乗り移つたみたい…

氷高

これを呪いと言わずして（行こうとする）

あへ

氷高さん、どこへ行くの？

氷高

心配御無用。私は私のいるべきところへ行くだけです（去ろうとする）



氷高の向かおうとしたところから文武帝が現れる。まばゆいばかりに輝いている

文武

三千代

母上、氷高の姉上、吉備、そして三千代…まこと王宮とはきらびやかな女たちの世界だな何を申されますか？中でも一等輝かしき星は、帝ご本人に他なりません、ああ何と眩しき、何と神々しき！

文武

悲しみを透かして垣間見る、この世の何という美しさ。かような女たちの醸す慈しみと輝きの世界を、男の我がただ一人で背負っていけるものだろうか

不比等

帝、お忘れなく。ここに地味な男も影の如く侍りますれば

文武

頼りにしているぞ、藤原不比等

不比等

さればこの度正式に、この橘三千代さんを妻に迎えることといたしました

三千代

お互い、色々と周辺の整理説得もつきまして

文武

それはめでたい。先帝も天上にてさぞお喜びでおいでだろう

吉備

ああ！あの人たちはどうしてあなの？帝に取り入り独占しっぱなしで、自分たちの話ばかり！

あへ

うろたえるな吉備。目くじら立てて張り合う相手ではない

氷高

一言よろしうございますか？

あへ

つて言ってるそばから！

文武

姉上！

あへ

おやめなさいって

氷高

カル

吉備

「帝」！

氷高

帝…可愛い弟カル！そう。あなたは今や立派な帝です。うん。もう一人で大丈夫よね。だか

ら私はここを離れます。どうかお許しください。母上も、吉備も、ごめんなさい、止めても聞きません

文武

藪から棒に何を、ここを離れてどこへ行くというのです姉上？

氷高

わかりません。少なくとも都の三方に壁となつてそびえる、あの大和三山の向こうね。私は私のいるべきところを探す旅に出ます。うん。馬に乗って！

馬に乗って都を去る氷高皇女

屍樂人

心繊細にして果敢なる乙女、氷高皇女は、そう宣言して都をあとにし、自分探しの旅に出ました

文武

何言つてんだか、氷高だか、何だか

以前よりさらにのんびり牧歌的なその後の暮園に文武帝が御幸する  
被験体老人の髭は伸び、薬草園は草が巨大化し、大きくなった亀がゆっくり地を歩いている

屍女歌人

♪命寿ぐ ゆうべの夢 醒まして染めぬく うつつの色の あせても未だ 永久(とこしえ)に燃ゆる

三千代と不比等が文武帝を歓待している

三千代

帝、本日はこの暮園に御幸遊ばしていただき、まことにあり難きことでございます。三千代は…三千代は…(泣く)

不比等

おい、三千代、先走って感極まるな、御前であるぞ

三千代

文武

不比等

三千代

文武

三千代

かぐや

不比等

三千代

不比等

三千代

不比等

三千代

ああ、申し訳ございませぬ。ただ、あの可愛らしく泣きながら我が乳をむさぼられた、あのカル皇子様が！まことに「立派になられたものよ！そんな眩しき帝が、この乳母に、三千代の薬園を案内せよ」とまこと畏れ多い。はい！今、この暮園の究極の成果、とっておきの長寿の秘薬、おろしたての新鮮な亀の切り身に長寿薬草を配合した、「三千代の命汁」を只今用意させております。おババ様の持統帝も生前毎日お召し上がりになっていた妙薬にございます。これをぜひとも本日は帝にも「試飲」いただきたいと、いやもちろん、帝はお若く澆刺、心身すこぶるご健康であらせられるわけでございますが…

ハハハ、相変わらず三千代のしゃべりが興に乗ると、なかなか「二の句がつげぬので、こっちは黙り込んでしまふ。故にわれもこうして言葉少なき性質に育った

まことそうなのです。うるさいうるさい

申し訳ございませぬ

よいのだ。よいのだ…我はずーと幼くて、何より我を大切に思ってくれた先帝の思いの深さを知らぬうちに、当の持統帝はこの世を去られた。だから今こうして、オババ様の残された思い出の一端に触れ、その深き愛情の空白を埋めている。三千代、もつと川の流れの魚のように、おババ様のことをまくしたてておくれ。その心地をこの耳に覚えさせるのだ  
ちよつとかぐやさん、命汁まだ出ないの？

申し訳ありません（うねびがかぐやに耳打ちしては去ることを繰り返している）

おい、三千代、帝の話をよく聞かんか。とてもいいお話をなされておるといって  
だつてそろそろ料理が出ないと間が持たないわよ

おまえ、今そんなアレじゃないだろ

おまえって言わないでって言ったよね

今そんなこと

かぐやさん、どうなつてんの命汁？ちよつと遅くない？

その三日前の暮園

屍樂人

かぐや

不比等

文武

かぐや

三千代

かぐや

不比等

かぐや

三千代

かぐや

三千代

只今すぐに：

どうぞでございますか帝、御膳を待つ間に、鶴の竹林を散策なされては？

ほお、ここには鶴もいるのか？なるほど鶴は長寿の：

申し訳ございませぬ！

ちよっと！何？

三千代の命汁は今、出ません！

何だ何だ、いきなり

実は、亀をさばく職人が…あの、でなりめが数日前から亀小屋に立てこもって、戸を閉めきって外に出てこないのです。今忙しいの一点張りで

今忙しい？

同期のうねびと仲良しのみみなしがギリギリまで説得を：

何が今忙しいだ？で何が同期だ誰が仲良しだ？その情報いらぬ！

三日前の夜中のことだった。泣く子も黙る丑三つ時に二人の男が大きな袋をひきずって、暮園の中へ持ち込んで途方に暮れている。どうやらこんな時刻になるのは計算外だったようだ。そんな時間に暮園の中にも起きているまともな者はいなかった。いや一人いた、でなりである。これは口は悪いが、至極まじめな男であった。竹林にて鶴の生態を寝ずに観察し続けて記録をつけていた。そのでなりがただならぬ気配に気づいて正門のあたりに姿を現すと、二人の男、うんずとそうどは少しホッとして、初対面の人の好さげなおじさん、でなりに事の経緯を説明した

二人の話聞いて、でなりが袋を開けると中に猿轡を噛まされて縛られたみやこが姿を現す

でなり

うんず

…こいつが…その…鶴だっていうのか？  
間違いありません。変わるところをこの目で見たんです。この女の正体は鶴なんです。な、先生

そうど

でなり

うんず

でなり

どんな感じで変わっていった？  
どんな感じとは？  
だから、変わるところを見たんだろ。どんな感じで鶴から人へ、人から鶴へ変わっていくんだ？

うんず

でなり

うんず

そうど

うんず

そうど

でなり

そうど

うんず

そうど

鶴から人、あるいは人から鶴、変わってから、あ！変わった！って気づくんだよね  
つまりすぐえ速いってこと。瞬間的なよそれは。瞬き一つの間にかかるわけ。だから俺たち凡人には変わり目は認識できないのよ  
あるいは季節みたいなもんだよ君。寒くなつて初めて秋になったってわかるだろ。もうその時には夏は終わってるんだよ。もう遅いんだよ。俺たちの夏は知らないうちに終わってたんだよ

うんず

でなり

うんず

でなり

うんず

そうど

うんず

そうど

うんず

でなり

うんず

そうど

うんず

そうど

うんず

何か違う話になってんぞ先生

まあ：わからないでもない。俺も、知らないわけじゃないからな

へえそうかい？そりやさすが旦那

で、何でもこゝへ連れてきた？

だから言つたろ？俺たち凡人には、変わり目も、どういうカラクリでそんなことが起こるのかも、とんとわからねえんだ。だからこゝへ持ち込んだのよ

旦那もお好きなんですよ、鶴？

何でもこの赤い壁の中じゃ、死にかけの老人どもに亀や鶴の生き血をすすらせて、長生きさせる実験をしてるっていうじゃねえか？

残念ながら秘密はすでに露見しています

役に立つんじゃないかな、この化け鶴女：安くしとくよ

ふむ：つまり銭か。銭のことは俺には何ともならねえな。ちょっと待ってろ（去る）

ほら見ろ、俺の読みの通りだ。こりゃとんでもねえ銭が手に入るぜ、間違いない。思い切つて強行して正解だったよ

しかし、あのまま黙つて鶴女に紙を作らせておいても、それなりの安定収入にはなつてたわけだが

桁が違うよ、桁が。見てろよ。俺たち二人、どっかにお屋敷構えられるほどの銭が来るぜ親友の与兵衛のことを思うと素直には喜べんな

何今更とつてつけたように親友だとか言つてんだ覗きオヤジ。あいつにとつても鶴女は身の丈に合わねえ泡銭だ。あのまま放つときゃ、運気を吸い取られて、いずれ干からびんのが関の山。あいつのことだ、朝目を覚ましや、ひとしきり焦りまくつて、怒りまくつて。挙句にひとり泣きじゃくつて、それでまたその日暮らしのまじめな百姓に戻るだけだろう。与兵衛のためだ。あんな化け鶴に取りつかれちゃ、命がいくつあつても足りねえつて。そうだろう、

先生  
うんず、そうど

夜着姿の三女官が慌てて出てきて、みやこの姿を見て「本当に鶴なの？」とか言つてキャツキャ騒いでいる  
あつけに取り残れているうんずとそうどの姿をやっと認めて薄着の身を隠すようにして悲鳴

三女官  
うんず

きゃあ！  
いやいや、違いますよ。そういう意図はないですよ。こいつを運んできただけです。向こう  
向いてまじょうか。あの、銭もらったらすぐに帰りますから

でなりが戻ってくる。草を持っている

そうど  
うんず

あ、来た、用務員のおじさん、おじさん！  
この女の人たちから銭をもらえばいいのかな？

おもむろに持っていた草を二人の顔にあてがうと、うんず、でなりは気絶する

みみなし  
でなり  
かぐや  
でなり  
みみなし  
うねび

え？何？何何？何してんの？  
このまま帰しちゃまずいだろ  
気絶よね、それ殺してないよね  
殺してねえよ。そんな草こっちもおっかなくて触れられねえわ  
何やってんのよ、あんた  
まあでも、どうせ大した銭なんて今は用意できないわけだしね

回想終

でなり

かぐや

みみなし

でなり

三官女

うねび

でなり

みみなし

もしこいつらの言う通り、この女が本当に鶴と人を行き来する女なんだったら、このことは

絶対に外部に洩らすべきじゃない大事だ。そうじゃねえか？

：確かにこれは、かつての暮園の栄華を復活させる鍵を握るかもしれない大事だ  
でなり、あんたって人は、本当に根が真面目な男だよ

鶴が人になる：俺だけが目撃した、あの何十年来の鶴の謎がこれで解けるかもしれねえ。  
とにかくすぐにこいつを亀小屋まで運ぶ。手を貸してくれ  
はい

この二人は？

：殺すわけにもいかねえしな

本当にあんたは根が真面目だよ

かぐや

というような経緯で、只今でなりは、その夜以来、鶴女の研究に没頭いたしております、  
小屋から出てこないのです

三千代

不比等

文武

不比等三千代

文武

おまえら、完全にあの奴婢の手下になってんじゃねえか  
申し訳ございませぬ帝！すぐに私が参り、無礼者をたたき出してまいり…  
見たい

は？

その鶴女とやら、見たい

不比等が笛を吹き、多くの役人が亀小屋を取り囲む

小屋の中ではみやこが髪を乱して汗を流しながら一心不乱に紙をすいている姿



でなりはその姿を絵師のように紙に墨で絵に書いていて、色んな角度、距離から書かれた絵が何枚も部屋中に干してある  
でなりの絵に描かれたみやこは鶴と人の合わさったような外見（折鶴に足がある鶴人）  
役人たちによって扉、壁が乱暴に破られる

でなり

え？

みやこ

ハアハア…あら、でなりさんのお友達？じゃあ、目一杯おもてなしをしないとね

不比等の合図ででなりを拘束。みやこもまた猿轡をかまされる（捕まるまでの過程で何度か鶴の姿が垣間見える）  
文武帝が入ってきて、みやこを見初める

文武

…これがその、そうなのか？

不比等

そのようでございます

文武

（みやこの轡をとらせるように不比等にうながし）名は？

みやこ

（しばし考え）…みやこ

不比等

…でございますだ！無礼者、畏れ多くも帝にあらせられるぞ！

文武

ふうん

不比等

申し訳ございません

文武

全然そんな風に思えないね

不比等

はは

文武

…美しいね

不比等

はは、は？

三千代

いや、しかし帝、あくまでこやつは…

文武

…ちよつと二人だけにしてくれる？

三千代

不比等

文武

不比等

文武

三千代

文武

三千代

文武

不比等

三千代

不比等

え？え？それはいや、それは危険でございます。一体何をしでかすものか…ねえ？

おまえたちは引け（兵士たちはでなり、三官女を連れて退出。不比等と三千代は動かない）

…二人と言ったが、四人おらぬか？

ここに残るは影でございます。お気になさらず

気になるな

しかし帝、こやつ、急にかみつくかもしれませんよ

だからってそれくらいで死ぬわけでもない。ちよつと痛いだけだろう

血が出るやもしれませんぞ

いい加減にせぬか

三千代、出よう

でも…

もはや幼き皇子様にはあらしやらず

帝とみやこを中に二人だけ残し、不比等と三千代は亀小屋を出る

屍楽人

普段はでなりが血まみれになって亀をさばく、その暮園のボロ小屋で、うら若き帝はしばし  
噂の鶴女と秘された時を過ごして日が暮れる…

夕方になった暮園の亀小屋の周りには、被験体の老人たちが集まってきている

屍楽人

やがて鶴女の手をとり亀小屋より姿を現した帝は、西日にその顔を赤く染めながら、居並  
ぶ者達にこう宣せられた

文武

我はこのみやこを后とする

全

三千代

文武

三千代

文武

三千代

文武

三千代

みやこ

全

みやこ

でなり

不比等

三千代

不比等

：

お、お待ちください帝、このものは普通の女子ではございません

普通の女子だ

普通ではありません！それはさすがに許されませぬ。帝のお后様となられる者は、せめて普通に人でなければ

では三千代、おまえは普通の女子なのか？

めっちゃめっちゃ普通です

いや普通に考えて普通じゃないよ、おまえは。悪い意味で言ってるのではない。人はそれぞれが個性あつて特別。普通なんていうものはない。それが普通というものだ。そういう意味でこのみやこも、どこにでもいて、ここにしかない普通の女子。だが我にとってはかけがえのない…

得体の知れぬ、もののけですぞ

（ぐったりしていたのが動く）

：

これみんな、みかどさんのお友達？じゃあ目一杯おもてなしをしないとね

（拘束していた役人の手を振り切り）ありや実際、鶴だぞ！

いや普通の女子だ！

不比等さん？

帝に申し上げます。すべてはこの不比等の仕掛けた愚かな企みだったのでございます。かような浅薄なごまかしはすぐに破綻する。ここににいる女子みやこそ、我がかつて若かりし頃、どこぞの端女に産ませたこの不比等の隠し子。世間の目を憚り、鶴女などもありませぬ噂にくるんで、田舎の里に育て置いたが、巡り巡ってかような混乱の種となるとは、まことに世の因果は奇々怪々

三千代

文武

屍女歌人

え？

…さようであつたか。不比等の娘であれば、我が后とするに不足はあるまい  
♪ちゆるっちゅっちゅっちゅちゆるちゆるるう　ちゆるるるるーるー　ハア　ちゆる  
っちゅっちゅっちゅちゆるちゆるるー

帝はみやこと共に去り、兵に拘束された三官女とでなりが、不比等と三千代の前に残される

不比等

三千代

三官女

でなり

三千代

さて、三千代から君たちに何か大事な発表が、あるんだろ？

はい。ええっと、結論から言つと、この暮園は今日を持って閉鎖します

え？

は？

色々みんな思うところあるだろうけど、私なりに考えて決断しました。ちよつと唐突だよね。  
うん。でももうここは役割を終えたのになつて、今日思いました。みなさん今まで本当にあ  
りがとう。感謝してます。この暮園での色んな思い出は、持統帝の面影と共に三千代一生忘  
れない。絶対に。あとそれから、それに伴つて、みなさんに、今後守つていただきたいこと  
が一つだけあります。えっと…

お后みやこ様に関する、根も葉もない噂は、今後絶対に口にしてはならない

：

鶴だとか何だとかね。鶴バナ禁止。つるのつもダメ。つるのるもダメ、つるぬき算で。いい  
かな？わかつた？

ちよつと待つてくれ…

いやわかる、そうは言つても、おまえたちは経緯を知つちやつてるわけだから、難しいよな。  
普通に考えたら、つい色々な人に言いたくなるよな

三千代　それ絶対ダメ。約束です。守れるよね、それくらい。あなたたちだったら  
でなり　おい待ってくれ…  
不比等　やっぱり難しいのかもしれないよ、三千代。さすがにね、何かの拍子で言っちゃうよね。俺  
でも言っちゃうよ  
三千代　言っちゃうかな、やっぱり  
不比等　言っちゃうよね。やっぱり  
三千代　言っちゃうか  
不比等　だから死んでもらう

三官女がすかさず役人に斬られる

でなり　ひえっ！ひえー！  
三千代　運が悪かったね。成り行きってのは本当に怖ろしいもんだよ  
でなり　（斬られる寸前）お許しを！  
不比等　待った。忘れる所だった。そもそもみやこ様をここに連れてきた男どもがいたはずだろ？こ  
いつがどこぞに生かして置いたはずだ。おい、奴らどこにいる？  
屍楽人　でなりの証言により、土蔵の中から何もわからぬ、意識朦朧のうんずとそうどが引き出され  
てくる  
不比等　こいつらも一緒に消えてもらう。待たせたな亀職人。さあやれ  
三千代　…ちよつと待って！待って待って！  
不比等　どうした三千代？  
三千代　あんた…まさか…（そうどを見て）  
そうど　…お母さん

屍女歌人

三千代

屍樂人

♪きーっ、きーきっききー、亀は何匹、鶴は何羽で鶴亀算  
もろえ！

橘三千代の先の旦那はミヌ王という王族のはしぐれ。二人の間にかつてできた男子の一人が、反抗期に家出して、野に下って手相見に身をやつした、そつど、こと、県大養諸兄（もろえ）であつた

そつど

お母さん、お元気でしたか？

三千代

おまえも、元氣だつたかい？もろえ！

うんず

…あの、すいません、お母さん、お助けを！

三千代

誰？

そつど

…悪友です

うんず

おい！

そつど

親友です

でなり

俺もです！

うんず

この人にはわか仕立てです

不比等

どういふことなのだ？

三千代

もろえ、新しいお父さんよ

そつど

お・と・う・さ・ん…

うんず

お父さんも、お助けを！

でなり

そしてにわか仕立てもお助けを！どうかお慈悲を！

うんず・どつど・

でなり どうかどうか！

三千代

不比等さん、お願い。この子にはもうこれ以上、さみしい思いをさせたくないの

三人

どうかどうか！

不比等

やれやれ…そつといえ、あくる年に派遣が決まっている遣唐使船の人柱がちよつど足りてお

らぬ。この地を去り、大陸への船旅にて海神の怒りを鎮める礎になるというなら、見逃してやらぬこともない

屍楽人

うんず  
でなり

それでは見逃された命も途端に風前の灯。およそ船団の半分が往復の海に散る過酷なさだめの遣唐使であったが、今の彼らに検討の余地はなかった  
三途の川がうんずの海で、果ては波間のもくうんずか…  
それでもここで死ぬよりは…

一同が退場していき、三官女の遺体だけが残され、冷たい風が吹く

屍楽人

命寿ぐ暮園は死の匂い立つ不吉な廃墟となっていく

三官女の遺体が蠢き、ゾンビのように立ちあがる

かぐや

…死なないねえ

うねび

…死ねないねえ

みみなし

…これって病よ

かぐや

死に至らぬ病…

うねび

職業病ね

みみなし

暮園の

かぐや

つまり何かが効いたんだろねえ

与兵衛が走り込んでくる

与兵衛

「こころで女を見ませんでしたか！」

三官女

(顔を見合す)

与兵衛

女、もしくは鶴を

三官女

：

与兵衛

鶴、いやもしくは女房を……きつと誰かにさらわれたんです！知らぬ間にどこかへ消えたんです！

三官女

女、もしくは鶴が。鶴、いやもしくは女房が？

与兵衛

…ああ…みやこ…(その場に崩れる)

冷静になってみると血まみれの三人の様子に驚く与兵衛

王宮では皇后となったみやこに子が生まれる

屍樂人

やがてお后みやこに待望の皇子が生まれました。オビトと名付けられたその赤子は、文武帝の後を継ぐ皇太子となることを約束されていました。つまりこのままいくとあの脂ギラギラ男、藤原不比等がいずれ帝の祖父ということになるのです…ところがほどなく都に噂が立ちます。皇后みやこの正体は藤原ではない、というより人ではない、鶴のもののけであると

都の裏通りで三官女が巷に噂をばらまいている

不比等

どういうことだ！事情を知る者は皆、あの世もしくは海の果てのはず。一体どこからそのような噂が湧いて出る？

三千代

まさか生き残りのおまえが裏で糸引いてんじゃないだろうね、もろえ

もろえ(そつど)

滅相滅相、そんな危ない橋を渡るはずがないよ、お母さん。親友のうんずは、遣唐使船の舵



草むらで抱き合う二人

三千代

不比等

三千代

もうえ

不比等

屍女歌人

屍楽人

文武帝

不比等

文武帝

不比等

を切って大陸を目指したわけだが、僕はお母さんのスネにかじりついて王宮での出世に人生の舵を切った。もうあの頃のことは全部忘れたよ

：不比等さん、私達大勢に恨まれてんだよ、何とか追い落とそうと誰もが私たちの首を狙ってるんだ

何を弱気になってる？ そんないじけた連中に決して負けるものか。何のためにおまえみたいな女と熟年夫婦になった？ 二人して、天下をとるためじゃないか？ 王族の出でもない我らが、実力でこの国を好き勝手に舵取りしてやるという破廉恥極まる野望のためじゃないか？

ああ、不比等さんのそういうところ！

ああお母さんやめてください！ 実の子供の目の前で！

しっかり見ておけ。これが権力というものの濁った劣情…

♪きーっ、きーきっききー

不比等もすぐに舵を切った。帝すらも気づかぬうちに、お后みやこを赤子のオビトから強引に引き離し、電光石火、誰の目も届かぬ山奥の隠れ座敷へと軟禁する

どういうことだ不比等！ 后はどこだ？ みやこをどこに隠した？

隠したなどは滅相な。本日未明、お后様は、重き心の病にて抜き差しならぬ発作状態に陥られ、周囲の者にも危険がおよぶほどのお荒れ様、薬師の見立てでは、しばしの期間、静かな場所でお一人にての心身の療養が必要であろうと

しばしとは、どのくらいだ？

さて…それは誰にもさだかには…やはりお后様は、普通の女子ではあらせられぬのやもしれませぬ

屍樂人

もののけ封じと影で人は囁いた。不比等の強引な策はむしろ噂の真偽に耳目を集める。皇太子の母の素性は藤原氏か、もののけの鶴姫か…引き裂かれた帝の繊細な心身はやがて先細り、残りの人生を掠め取っていく…ついにまだ幼きオビトを残して、文武帝は若くしてお隠れになった。まるで…

持統帝の星空の下で葬儀と全く同じような光景が繰り返される

三千代がまた大袈裟に泣いている

吉備によりかかって憔悴しているアハ

アハ

…まるでこれは！幼き皇子ひとりを残して、賢く美しきお方が突如お隠れになられる…我が夫は幼きカルを残し、そのカルは幼きオビトを残し…

吉備

母上、お気をお鎮めに

アハ

あなたはこれが悲しくないの吉備さん？あなたの父もあなたの兄も…あれほど輝かしく世に望まれて王となるべき者たちが、ああ、ことごとく…

葬儀に参列しているタケチ皇子の子、長屋王が傍にかけよる

長屋

水をどうぞ。少しは落ち着かれましょう

吉備

ありがとうございます、長屋王様

長屋

吉備皇女、母君のお気持ちは深くお察しいたします

屍樂人

この長屋王とは、文武や吉備と同様、偉大なるオオアマ大王の孫であって持統帝とは繋がらない。かつて文武帝カルの対抗馬として最も警戒されたタケチ皇子を父とし、母はアハの姉ミナベ。アハにとっては甥に、文武、吉備には従弟にあたる

長屋

だが悲しみにばかり浸ってもいられませんまい。空位となった玉座をどなたに委ねるべきか。皇太子オビト様はまだあまりに幼く、しかもその出自に関する聞き捨てならぬ噂もある

アハ

：だからと言って、そなたに帝の座が転がることは決してないゆえ

吉備

母上、急に何を…

長屋

そのようなことを考えたことも…

アハ

カルの玉座は、持統帝がその一生を濁りしぬかるみに投じて死守されたのだ。今になってタケチの子に渡ろうものなら、あの母上の粘りと執念は結局何であつたのか？

吉備

今そのような話…

地から湧いて出た持統帝の霊と屍達が影となつてアハに重なる

アハ

心せよ。この身は己一身にあらず。生死の境を越えて

アハ・持統

我らの道はただ一つ

長屋

え？

アハ

私がやります…

吉備

母上？

アハ

亡き持統帝の決断にならない、まだ幼い孫のオビトが成人するまで、我こそ中継ぎの女帝となる

屍楽人

これぞ太陽神アマテラスにも比すべき神々しさ、元明帝におわします

アハが元明帝として即位する神妙な儀式

屍女歌人

♪春すぎて夏きにけらし白妙の衣干すてふ天の香具山

丘から馬に乗った氷高皇女（民の姿）が元明の即位の光景を見ている

氷高

これを呪いと言わずして

藤原京の北はるか離れた荒野にて威勢の良い掛け声が聞こえてくる

河に橋をかけようとする民達がいる

一人の僧、行基が指揮している

氷高が民の一人に紛れて作業に加わっていて、一休みして一杯の水を飲む

行基

おーい、伝助！伝助！おまえや！伝助！

氷高

…あ！はい！わしですか？

行基

わしですかやあらへんがな。おまえ伝助なんやろ？伝助は他におらんやろ？

氷高

はい。そうでした

行基

はいそうでしたやあらへんがな。ほんまに調子狂うなおまえだけは

氷高

まことに申し訳ございません行基様

行基

だから様やめ様やめ、行基さんでええねん言うてるやろ。ほんでその大層なしゃべり方もほんま大概やで自分

氷高

「ほんま大概やで自分」？行基様それはいかなる意味の？

行基

もうええねええねん。それより肝心な用や。ほら、おまえを訪ねてきとるお方がおるぞ

氷高

わしをですか？

行基

だから君を！…ひだかという者がおるかというから、そんな奴は知りませんと言ったら、おまえのこと指さしてな。ほら、あそこでお待ちじゃ。ありゃあ、わりと偉いお方ではない

氷高

か？  
吉備…

吉備と長屋王が待っている

吉備

伝助！よ、伝助！

氷高

よくここがわかったわね

吉備

大変だったわよ。妙な名前乗ってるし、男のなりなんてして

氷高

こんな遠くまで

吉備

それはこっちの台詞

氷高

何しに来た？

吉備

心配したのよ。目を離すとすぐになくっちゃうから姉上は

氷高

放つといて。私は私のやりたいように生きるだけだから

長屋

橋を作っているんですね

氷高

お久しぶりでございます長屋王様

長屋

あの行基のような者らには朝廷も目を光らせてます。何か見返りがあるわけでもないのに、

かなりの数の流民がああいう者らに付き従い、各地で開墾したり、橋を作ったり。何かの拍

子に一斉に暴徒にでも化せば、放ってはおけない勢力だ

見返りはありますよ

ほう

毎日の汗が確実に誰かの役に立ちますから

ところで姉上、私この度婚儀が整いましたのよ

あら

氷高

吉備

氷高

長屋

氷高

吉備  
氷高  
吉備

こちらの長屋王様と  
…おめでたきこと。まさかわざわざそれを知らせに？  
まあそれもあるけど…母上がこのところ、大いにお悩みで

顔を衣で覆ったお忍びの元明帝が現れる

氷高  
元明  
氷高  
元明  
氷高  
元明  
氷高  
元明  
氷高  
元明  
氷高  
元明  
氷高

帝？  
いいところね。広々と風が渡って、山々の緑が綺麗。気が晴れるわね  
わざわざかようなところまで  
やっぱりこういうところがあなたのいるべき場所なのね  
確かに風光は明媚ですが、つまり何も無い荒野です。でもこんな場所にも人の暮らしがある。  
行基さんはそういう場所に赴いて人々を助ける。それが真の仏の道であると説かれます  
…氷高さん、実の母である私が帝になる決心をしても、あなたは都を呪いの地だと拒んで寄  
り付かず、放浪をやめなかった。ずっと考えていたんです。その呪いとは結局何なのか  
何なのか、わかりましたか？  
わかりません。でもわかったことがある。それがわかるなら災い。わからないから呪いなの  
だ。だから相対しても無駄なこと、逃げるしかないのだと  
母上  
私は決めた。藤原京を捨て、都を遷します  
…何もかも捨てねばなりませんよ。思い出ますべて。捨てられますか？  
過去の呪いを断ち切った新しき時代を用意せねばなりません。いまだ幼いオビトが一人前に  
なる前に  
母上…

元明

で、ふさわしき土地を探す放浪の旅をしてきました。あなたじゃないけどね。ああ！いいところね。いっそここに新しい都を開こうかしら？

氷高

え？

元明

ここならあなたもいるしね。いるよね、ここなら。氷高さん、どうせならあなたがいるところがいいのよ。あなたに傍にいてもらいたい。あの子たち共々、私が心から信じられる者たちに帝の私を支えてほしいの

吉備

つまり姉上を口説くためにわざわざここまで来たわけよ

長屋王

帝の御前においても憚らず、今や政の大半は藤原氏の意向で動かされつつある。皇太子オビト様の母の一族という立位置から、遠慮を外れた振る舞いも目立ち…

氷高

何となく察しはつきますが…

元明

だからあなたのような筋の通った人が王宮に必要なんです氷高さん。お願い。今こそ母を助けて。だからってあなたがこちらへ歩み寄る必要はないのよ。あなたはそこを一步も動く必要はない。私達と都が、まるごとあなたへ寄せてきます。あなたは揺るがぬ定点となってここにいればいいから

動かない氷高の周りで展開される大規模な引越しの光景

かぐや

そうして遷都が決まった

うねび

氷高皇女が一步も動かぬしるべとなって、都がごっそり大和の北へお引越し

みみなし

あおによし寧楽の地に平城京という、なんと立派な都が出現し

三体

私たち生きる屍は、旧都の廃墟に置いて行かれ、忘れ去られた

長屋王

しかしその前代未聞の遷都計画を積極的に陣頭指揮し、陰ではせんと君などと呼ばれたのがあの右大臣不比等だ。その狙いは明らか。みやこ皇后と鶴にまつわる噂話は、旧都をまるこ

と葬り捨てることで人々の記憶から消えていく…などとはこの長屋王がさせるものか。この引越しのどさくさこそ、むしろ隠された真実を暴き出すまたとない機会である…

かぐや

うねび

みみなし

あの時以来、彼は私たちと暮園に残ってすべての事情を知り、自生して繁る薬草で食いつなぎながら潜伏、みやこ奪還の機会を待ち続けていたのだ  
引越しのどこかの段階で必ず不比等と三千代は、みやこを軟禁している隠し場所に近づくはず。追跡尾行の果てに、ついに与兵衛はその場所を突き止めるが

与兵衛がみやこの軟禁場所に踏み込むとみやこは紙をすいている  
与兵衛と目が合う

与兵衛

みやこ…

みやこ

…

与兵衛

みやこ、俺だ…与兵衛だ…忘れちゃったか？…俺だよ、おめえの亭主だよ！

みやこ

…

与兵衛

おい、まさかおまえ、忘れちゃったか？

鋭い笛とともに警備兵に拘束される与兵衛

みやこが転じた一羽の鶴が、隙間ができた入り口から空へ飛んでいく

与兵衛

みやこおお！

みやこ鶴はさらに飛んでいく



不意に木の上に現れる一人の男（大伴子虫）  
網をかけみやこ鶴を生け捕りにする

一幕終わり

二幕

4 遷都

廃墟となつた暮園にて三官女（三体）が明るく歌う

三体

♪滴る心地 涙目の 皺も割れゆく 千歳雨 沁みて潤う 鶴千年亀万年

かぐや

今やこの藤原京は時の彼方に忘れ去られた廃墟にございます

うねび

かつてその縁起を歌い語りし、生死の狭間に漂う屍たちの姿ももうありません

みみなし

この地にはもう歌い語るべきものが何も残っていないからです

三体

ここに残りし者は、三体の生きる屍

かぐや

そしてその老婆たちの世話を黙々とこなす、いつまでも若き新用務員

与兵衛が畑の世話などをしている

三体

♪ここは暮園 寿ぐ呪いの 道しるべ

♪鶴千年亀万年 人間五十年

長屋王邸

大伴子虫が鶴を抱えて控える

子虫

件の鶴を生け捕りました。長屋王殿下

長屋

でかした子虫！

子虫

（鶴を網から出す）

長屋  
子虫

…これがまことに先のお后なのか  
…難しいことはわかりません。殿下の読み通り、不比等は軟禁したみやこ様を寧楽の新都へ移そうとしました。その動きから軟禁場所を突き止め、で、まあひと悶着ありまして、つまるところ最終的に空へ飛び立ったのがこの鶴です  
人間の姿には？

長屋  
子虫

一度も

長屋

普通の鶴かもしれないな

子虫

…難しいことはわかりません

長屋

一体どうなったら人の姿に変わるんだろ？

子虫

…難しいことはわかりません

長屋

別に難しいことじゃない。未知の現象だ。わかるはずがない。うん、でかした子虫。そなたをこれより鶴司に任じる。この鶴を密かに養育し、徹底的に研究するんだ。しっかりとした餌を与えよ

子虫

はい…鶴のしっかりした餌って何ですか？

長屋

ん？…米じゃないか？

子虫

米ですか？鶴に米ですか？

平城京での藤原家の隆盛ぶり  
今が盛りの不比等の一族が豪勢に登場する

かぐや

うねび

唐の長安をそのまま模すなら、藤原京の如くおよそ正方形の区画になるはずだった平城京には、東に瘤のように突き出た外京という一角があった  
そこが不比等を頭とする藤原氏の支配する領域で、中心は興福寺。その広大さが王家をもし

みみなし

のぐ今の不比等の力の大きさを表している

三千代  
不比等  
三千代

すでに老いた不比等には母違いの四人の男子がある。武智麻呂、房前、宇合、麻呂。それだけが有能な官吏として王宮でも力を伸ばし、一族の備えは磐石。その上、あの晩婚再婚の三千代との間にさらに娘が一人生まれていた。皇太子オビトと同年の生まれ、アス力姫である鶴をどこぞへとり逃がしたとはまことでございますか  
うろたえるな。誰もお后様の姿を目にした者はおらぬ  
しかし…

不比等  
三千代  
不比等  
三千代  
不比等

もはや過去の出来事。こちらから下手に蒸し返さぬことだ。いずれ人々の記憶から消える心配なのはオビト皇太子ご本人です。生みの母への執着がそのうち生まれはせぬかと生まれてすぐに引き離れたのだ。さようなものは生まれまい。それよりも…アス力が将来オビト様の後になってくれれば、すべての憂いは消えよう  
そのアス力に子が授かれば  
今度こそ、文句なく藤原の帝の誕生だ

もろえが年がだいぶ下のアス力と無邪気に遊んでいる

不比等  
三千代  
もろえ  
不比等  
三千代  
アス力  
三千代

…そのためにも三千代、あの髭もじゃ息子な、あいつ、あんまりアス力に近づけるな  
もろえ！妹と遊んでないで勉強しなさい！  
はい、お母さん  
気持ち悪いな  
アス力  
はい  
あなたはオビト様と遊んでなさい

アスカ

はい！オビト様あ遊びましよ！

オビトOが出てくる

オビトO

よしアスカ、かくれんぼうだ！

アスカ

きゃあ！（走り回る二人）

三千代

…本当に可愛いわ、二人とも、無邪気で

不比等

ああとも、ああとも

三千代

本当に…父君文武帝に生き写しね

不比等

ああとも、まごうことなき皇太子殿下…

走り回っていたオビトが鶴の眠る一本足のポーズをして止まる

三千代

え！

アスカ

鶴だ！

また走り回るオビト

不比等

…今、一瞬止まったな…心臓が

遊びに加わろうとするもろえ

もろえ

おいらいも入れてくれよ兄弟！

三千代

もろえ

不比等

三千代

オビト0

アスカ

こら、もろえ！やめなさい！あなたいくつだと思ってるの？

すいません、お母さん

…気持ち…悪いな（呼吸が荒い）

不比等さん？大丈夫？

オビトは…八歳！あ、おババ様！

「帝」！

元明、氷高、吉備、長屋王、藤原四兄弟（お面）が華やかに登場する  
オビトは依然走り回っている

元明

オビト0

オビトさん、こちらへ座って

あ、亀だ！

顔を透けた布で覆った三体がでかい亀を引きずって御前に出る

かぐや

その年、大変大きな亀が郊外で発見され、元明帝の末長き御世を寿ぐ瑞兆だとして王宮に献上された

オビト0

でっかあ

それを機に年号は亀の霊と逆さに書いて霊亀（れいき）と改められた

うねび

実はかつての暮園に放し飼いだった亀の一匹が、廃墟に残され野生化し、巨大に育ったものだった

みみなし

オビト0

われも亀になる

元明

これこれ、オビトさん、亀にはなれないよ

オビト0

アスカ

オビト0

元明

三千代

不比等

かぐや

みみなし

うねび

長屋

アスカ、手伝え！鶴亀合体だ！

合点だ親分！

千年万年永久合体！

こちら

オビト様、アスカ、いい加減に…不比等さん？

…何やら…さっきから…気分がすぐれぬ…

三千代も不比等も気づきもしなかった

自分たちが殺めた私たち三体のことを

これが私たち三体のささやかな復讐であることを

これ、オビト様！

アスカともつれ合ってたオビトが顔を上げると顔が変わっている（持統帝の顔）

元明

氷高

元明

オビト

三体

オビト

氷高

オビト

！（息を飲む）

いかなされました帝？

母上だ！

オビトは…八歳！

おめでとうございます

♪きーっ、きーきつききー、亀は何匹、鶴は何羽で鶴亀算

オビト様を奥へ

ええ？もっと歌いたい（とか言いながらアスカ、三千代と出て行く）

三体も退出する。その後を苦しみながら追っていく不比等の姿

元明

氷高

元明

いつからあんなにそっくりだっけ？はじめからあんな顔だったっけ？  
そりゃおババの帝とはみな血が一本で繋がっているのです。どこか面影があって当然の事  
面影？面影ってものじゃないよあれは！私にはわかる。氷高さん、ああ、これは何が起こっ  
てるんだ？

氷高

元明

吉備

元明

何も。おかしいことは何も起こっていません。  
母上が我らの後をどこまでもついでくる…不吉の沼が後の世を追いかけてくる  
きつと我ら子孫を守ってくれているのです  
そうじゃない。縛っておられるのだ。持統帝はあの暮園にて、そういう永遠を会得されたの  
だ

氷高

元明

母上？

…♪かごめ かごめ 夜明けの晩に 鶴と亀が滑った 後ろの正面 だあれ

元明が振り向くと戻ってきたオビトがいる

オビト

元明

氷高

吉備

氷高

オババ様も歌が好きだね！  
(悲鳴とともに気絶する)  
母上！  
姉上！  
…母上は帝としてのお勤めをもう十分に果たされた。ここからはゆっくりお休みしていただ  
きましよう…

吉備

氷高

でもオビト様はまだあのように幼く…  
仕方がない、誰かが中継ぎの中継ぎを…



吉備  
氷高  
長屋  
氷高  
吉備  
氷高

姉上がやるしかないのではないですか？  
待ちなさい  
確かに。氷高様が女帝として後を継がれるのなら、諸侯も納得するでしょう  
ちよっと、待ってよ…え？  
母上も前々から、いざとなったら、そのようにとお考えだったのだろうし  
何言ってるんだか、氷高だか、何だか…

元正帝の即位の式典を遠くの荒野から見守る行基

行基

まもなく元明帝は退位され、オビト皇太子が成人するまでの中継ぎの女帝の役目を、最も信頼する娘、氷高皇女に託された

元明

あなたのような人が王宮に必要なのです、氷高さん。お願い。今こそあなたが中心になって。あなたが歩み寄る必要はない。そこを一步も動く必要はない。国が、民が、まるごとあなたへ寄せてくる。あなたは揺るがぬ定点となつてここにいればいい。それがあるべき帝というもの

行基

一人自由を求めて逃げおおせたはずの寧楽の荒野にて、ついに追手の影に追いつかれ、もはや逃げることもかなわぬ状況で彼女は、生涯男を知ることなく、夫も子もたぬ初めての女帝、元正帝として即位することになる。およそ彼女が望まぬ形での、一人の女としてはまことに過酷な成り行きであつた

三体を追ってきた、弱っている不比等

不比等

おまえら、暮園にいた女たちだな！

三体

不比等

え…

どうも匂うと思っていたんだ。考えてみればこの匂いはかつて嗅いだことがある、そうだがキの頃に見た合戦の後の戦場の匂いだ。ああ、吐き気がする。おまえたち、殺したはずだ。何で生きてる？

かぐや

さあ実際、生きてるのか、死んでるのか

うねび

生きてるとして何のために？

みみなし

死んでるとして何ゆえに？

不比等

面倒くさい問答に付き合ってる余裕はないんだ。おまえたち、斬られて何で死ななかった？

かぐや

まあそれは何と言いますか

うねび

私たちにもさだかには

みみなし

強いて言うなら

三体

職業病です

不比等

(斬りかかる)

三体

きやあ！

不比等

つまりあの暮園じゃ、命長らえる技の研究が、ある程度結果を…う…(呼吸が苦しい)

かぐや

どうしましたか？

うねび・みみなし

だいが具合が悪そうね

不比等

俺を暮園へ連れて行け。そうしてその技を我に施せ…ウ…(苦しがる)

うねび

それからしばらくして、藤原不比等さんはこの世を去りました

みみなし

しばらくの間ね

三体

しばらく！しばらく！しばらく！しばらく！…

大袈裟に泣いている三千代とそれを慰めるもろえの姿

時が経ち、元明帝は余命わずかとなり、晩年の持統帝のように何人にも助けられて動く

元明

ある時、佐保川を見下ろす長屋王の別邸で宴が催され、私は元正帝とともに久しぶりに吉備の元を訪れた。亡くなった不比等に代わり、帝が長屋王を新たな右大臣に指名した祝いであった。長屋王と吉備の間には四人の男子が次々生まれて、いつもこの家族は賑やかで騒々しい。王宮の主な面々、もちろん不比等亡き藤原氏を担う若き四兄弟も招かれていたが、こちらは何とも性質が暗い。夫を失くし老いてなお闊達な三千代さんの馬鹿笑いだけが屋敷中に響き渡っていた。そしてようやく子供時代を抜け出しつつある年になったオビトと、自ずとその妻に収まった幼馴染、不比等の娘アスカ姫は、仲がよいやら悪いやら…

僕は今からこの幸せな光景を歌にして披露しようと思うが、アスカは間違っても僕に続こうなどと思うなよ

え、どうして？

当たり前だろ。あまりにも歌が下手な君が歌っては座がしらけきるあまり、逆に皆の目を引き、せつかくの僕の歌が誰の印象にも残らなくなるのは目に見えてるからじゃないか  
私、そんなに歌が下手かしら？

アスカ  
オビト  
下手下手下手下手へちまの下手さ

え？何それ？それどこで覚えた？ぜひ知りたい、絶対知りたい

オビト  
どうでもいいだろ、そんなこと

アスカ  
どうでもいいわね。そんなこと。でもオビトさん、あなたもいずれ帝になるお方なんだから、

一つだけ言っておくわね

オビト  
何だよ急に？

アスカ  
あなたにとってどうでもいいことでも、相手にとってはどうしてもよくないことが、多々、あるのよ。多々！多々！たたたたた！（つねる）

オビト

あいたたたたた！痛い痛いよアスカ！何するんだよ？

アスカ

大人教育です。特に必要もなく人を簡単に傷つけるような人は帝になってはいけません！

元明

（通りがかり）いつも仲がいいのね、うらやましい

元正

さあ母上、あちらで吉備が待っています

元明

帝の働きぶりにはまことに頭が下がります。あなたに任せて本当によかった。これでオビト

オビト

があと少し年を重ねてくれれば…

アスカ

オビト、準備はすでに整っております

オビト

すいません、お邪魔いたしました

アスカ

何だよ！

元明

子供は邪魔なのよ。空気を読みなさい

元正

いいのよ、アスカさん。しっかりした嫁をもらいましたね。さすが不比等さんと三千代さん

オビト

の子  
さあ、たまには親子三人静かに語らしましょう（二人歩み去る）  
ほら見ろ。こんなことじゃ、いくつになってもガキ扱い…

四人の藤原兄弟（お面）が横切る  
皆がアスカの耳元で何事が囁いて去る

オビト

何？何？何だって？

アスカ

早く子供を作れってさ

オビト

（赤面）

三千代

かつこ赤面？

オビト

うるさい！きいいいっ！（鶴のポーズでストップする）

アスカ

鶴だ！

三千代

おおおおええ！

そのポーズを見て吐く三千代

長屋王別邸奥の庭園

元明、元正、吉備、長屋王がいる

庭には一匹の鶴がいて、一本足で絵のように止まっている

元明

掃き溜めに…鶴…

長屋

あれはどうも寝ている状態みたいです

元明

へえ

長屋

まだわからないことが多いんですが

元明

あ、動いた…飛んで行かないのね

長屋

足に細い糸を結んであり、鶴司がその一方の端を自らの足首に結んでいます

元明

…これがあの人なの？

長屋

ここへ来てから一度も人の姿に変わったことはありませんが。今藤原家の誰にもこのことは

知られていません。さらに調査がはつきりしたところで、切り札として使えないかと考えています

元正

切り札？

吉備

姉上、母上、もののけ鶴の血が混じった疑いのある者を帝に奉るということがあっていいの

でしょうか？

長屋

しかもそれが藤原一門による偽装工作によって隠蔽されたという状況証拠は揃ってる

元明

吉備

元正

吉備

元明

吉備

元明

吉備

元明

元正

吉備

長屋

元明帝が倒れる

元正

長屋

やめておきなさい。私も帝も、あくまで中継ぎの女帝よ。何もかも、オビトに筋を繋ぐため

だよ。母上持統帝がカルに筋を繋いだように。私たちは役目を果たし、筋を通すまで

その筋とは、一体何の筋でありましょうか、帝？

：あまり極端なことをしては、藤原家の方々の恨みを買います。それだけが心配です

若き頃の帝のかつての口癖を私は覚えています。「私は常に私のいるべきところにいる」。恐

れながら今、姉上はいるべきところにおられますか？

ああ吉備、そんなに氷高を追い詰めないでやって

我らが守るべき筋とは、ただ藤原の思惑通りに、血筋を繋ぐことなのでしょうか

吉備！お願い！

帝とは、あるべき筋を通すお方ではなくてはいけないのではないですか？

吉備、あなたはいいいじゃない？立派な夫もいて子供にも恵まれて、女の幸せというものを知

ることができたんだ。だから氷高を責めないでやって。この子を苦しめないでやって。全部

それはこの私のせいなんだから

母上、もう帰りましょう

姉上はすっかり無口になられた

吉備、もうやめなさい

母上！

誰か水を！

元正は持っていた筒の水を元明に飲まそうとする

吉備

姉上？

滝の音が聞こえる

元正

母上、美濃の国多度山の滝の水でございます。ある木こりの若者が、老いた父に心ゆくまで酒を飲ませてやりたいと願って夢叶ったという、甘く匂い立つ奇跡の水。老いを養い、病を癒し、若き命の輝きを取り戻す養老の水で…

元明

氷高さん、聞いて。私わかるのよ、もう長くないのよ

元正

はい！終わり。愚痴撲滅。体によくありませんよ。楽しみなことだけ考えましょう

元明

氷高さん、私が死んでもあの子のことを…

元正

さあ母上、まずは養老の水を…

元明は死んでいる

うねび

元明帝アへは養老五年の冬にその一生を終えました

みみなし

ほどなく皇太子オビトが成人、元正帝は退位して後見役の上皇となり

かぐや

ここに聖武帝オビトと光明子ことアス力夫妻による約束の御世がはじまったのです

聖武

あ、亀だ！

三体が前より大きい亀を献上する

かぐや

私たち三体はそのめでたき即位を寿ぎ、密林化がさらに進んだ暮園廃墟で、怪獣規模で野生

の巨大化を遂げた亀を再びいたずらに献上。しかしそれを有難がって年号は神の亀と書いて

神亀（じんき）とあらたまった

アスカ、手伝え！鶴亀合体だ！

合点です

千年万年永久合体！鶴！（無邪気さが消えていやらしい戯れになってる）

亀！

かんちよう鶴！

ってこらこら

ははははは、ばうばう！ばうばう！

聖武・光明

光明

聖武

光明

聖武

光明

聖武

老いた三千代は子供っぽい二人を心配し、鹿の角を懸命に削りはじめる

もうえ

三千代

もうえ

三千代

もうえ

三千代

光明

三千代

お母さん、何を煎じているの？

これは鹿の角だよ

そんなものも長寿の薬になるのかい？

長寿つつうかな、一族の長寿つつうかな、つまりこれは男が飲む薬だ

どれどれお母さん

おまえはいいんだ。おまえにやる分はない

どれどれお母さん

だから女が飲んでもしょうがないんだよアスカ

帝が現れる



三千代

みかど

聖武

：

三千代

これは帝に…

聖武

三千代さん、特に朕にはいりません。もろえさんに与えてください

三千代

でも帝…

聖武

そんな薬なくとも、朕は元気です。

三千代

信じられないわ。だってあなたたち、なかなかお子が…

光明

そ・れ・が・ね

三千代

え？え？

聖武

朕は元気です

仮面の藤原四兄弟が祝いの舞を踊る

三千代は泣いている

かぐや

生まれたのはめでたくもお世継ぎの男の子でした

うねび

早速皇太子とされた、藤原氏悲願のその皇子の名はモトイ

みみなし

その皇子の名はモトイ

かぐや

その皇子の名はモトイ

うねび

モトイ？

三体

モトイ皇子！

みみなし

わずか一年の短い生涯でした

なつに泣く三千代

同じように泣く光明皇后  
ショックのあまりしゃがみこんでしまう聖武帝

三千代                    大丈夫ですか？帝？オビト？

鶴のポーズで固まってしまう聖武

聖武                    ∴朕は元気です

群衆の噂話が聖武を覆う

群衆                    ♪鶴だ、鶴だ。鶴人だ、鶴人が都に禍運びよる

黒いマントをかぶって大きな鎌を持った死神のような男、東人が都大路をゆつくりと王宮へ向かう

元正                    その日、傷心の帝を見舞った後、私は長屋王邸を訪ねて、妹吉備としばし話し、その後都大路を馬で下る帰り道に、その黒衣の放浪者とすれ違いました。その日吉備が私に話したこと

は、もちろん皇太子のことでした

吉備                    切り札の皇太子を失って、藤原一族は光明子アスカの正式な皇后への立后を画策しています。つまり姉上、いざとなったらその光明皇后が聖武帝の後を担う…あの不比等と三千代の子が

ですよ

元正                    当時、政の現場では、不比等なき藤原氏の力を、右大臣長屋王の勢いが上回りつつありました。吉備はモトイ皇子に変わる皇太子候補に、自らの生んだ長屋王の四人の男子の名を挙げ

たのです。確かに彼らは聖武帝と同じ私の甥、持統女帝の系譜として申し分ない資格を有していました

吉備

今こそ正しき筋に王座を取り戻すまたとない機会ではありませんか

元正

長屋王夫妻がそんなことを考えていることは、藤原側にもすでに知れていました

鶴のポーズの聖武を囲む藤原一族の中心で三千代が何かを画策している  
そこへ現れる黒衣の東人

5 鶴毒

聖武はゆつくりと鶴のポーズを解く

東人

聖武

東人

聖武

中臣東人と申します

…これぱつと見、絶対悪の使者ではないか？縁起の悪い先ぶれではないか？  
申し上げます

知らん知らん。もうしゃべる前から不愉快なんだから。しゃべらないで、匂うから。ほらこらん、藤原の四兄弟は本当に無口だよ。無駄な事は一切しゃべらないし、ちよつとしたくらいでは表情一つ変えないよ。だからたまに誰が誰かかわかんなくなるよね。はい武智麻呂（本人が手を挙げる）、房前（本人が手を挙げる）、じゃあこつちが宇合で麻呂ね（二人は首をかしげる）あ、逆か！ほらね。無駄口叩かなくても大抵のことは事足りるんだ。もうさ、やゃこしいのは削いで行こうよ。物事単純に考えようよ。はい、何？手短にモトイ皇子様の死は呪詛が原因でございました（一礼して去ろうとする）  
え？え？おい、待て待て！待てよ！呪詛って何だよ？

東人  
聖武  
東人

つまり皇子様の死を呪いの儀式で密かに引き寄せた者がいたのです（去ろうとする）  
おい、待て待て待て！まだ終わってない、終わってないだろ、明らかに。肝心なところをまだ言っていないだろ

東人

それは誰かということですよ。しかし帝、よく考えてみてください。答えは自ずと明らかではないですか？つまりそれはモトイ皇子が死んで一番得をする人物…

聖武  
東人

その探偵みたいないらん！削げ削げ！それこそ削いで速攻で即答しろ！誰の仕業だ？  
右大臣長屋王様です

なぜか花瓶の花を持って近づいていた三千代と光明子が花瓶を落として割る

驚いた聖武が振り向くと無表情だった藤原四兄弟の顔（お面）が歌舞伎みたいな怒髪天の表情になっている  
（大げさで芝居がかっていることが、この東人が藤原一族の仕込みであることを示唆する）

聖武

♪きーっ、きーきっききー

行基

その日、この行基は平城京の中心を縦に貫く下つ道と呼ばれる都大路を王宮へ向けて一人歩  
いとりました。伝助、いやいや、今や上皇となられて静かに身を引かれた先の元正帝との縁  
を頼り、病の貧者達を治療するための施薬院を建造するため、王宮よりの支援をお願いする  
つもりでした。すると馬にまたがり弓を携えた逞しい貴人たちが、朱雀門より勢いよく飛び  
出してきた、後ろにたくさん兵を従えて東へ、佐保川沿いに北上するのが見えました。一  
体何があったかと追いかける野次馬の群れについて行くと、その兵がすでに長屋王別邸を隙  
間もなく取り囲み封鎖している。やがて夕方頃になって、輿に乗った何人かの正装の貴人た  
ちが到着し、門より邸内へ入っていく。しばしの間何も変化はなく、完全に日も落ちて、邸  
を囲む兵たちの炊く篝火だけがチラチラと跳ねている。どれくらいたったか。ようやく貴人  
たちが邸内から出てきて輿に乗って去るに合わせて、兵たちの囲みが徐々に解けていく。中  
で何が起きているのかはわからなかった。それは後日、耳にした真偽不明瞭な噂で想像す  
ることしかできない。風が出てきた。最後に残された何人かの兵たちが篝火からとった火を  
邸内に投げ込みはじめた。するとたちまちその火が風に煽られ、広大な邸を炎が包んでいく。  
邸からは何人も使用人たちがあがり出される様に外へ逃げ出た。だがその中に長屋王一家  
の姿はなかった。彼らはこの時点で恐らくすでに全員死んでいたのだ

行基の述懐の間、子虫がみやこ鶴（パペット）を抱えて狭い隠し部屋に隠れている様子  
藤原兄弟の詰問の声が遠くかすかに聞こえている

声 …その罪万死に値するが、せめてもの情、潔く己の身を

長屋 かような稚拙な筋書きに屈する我ではない

吉備 恥を知るがいい、これが藤原の陰謀であることは…

声 こちらも力づくでというのはあまりに後味が悪い

長屋 貴様らの後味の良し悪しなど…

声 ここにはその後味を消す薬草がございます

声 もちろん奥様やお子様たちの分も

長屋 無礼なり！（陶器の割れる音）

思わず飛び出しているこうとする子虫を、いつのまにか人間の姿になったみやこが止めようとする  
驚いて逃げようとした子虫の足がみやここと紐で結ばれている

子虫 まさか…（叫びそうになった口をみやこが塞ぐ）

ドタドタ言う音があり、しばらくして人々が退出した気配とともに静寂

子虫 お后様…（紐をほどく）まいりましょう

周りを気にしながら静寂の邸を進む二人

扉を開けるとそこには凄惨な景色が広がっている

長屋王と吉備、その四人の皇子が毒殺に追い込まれた残酷な景色

暮園に生えていた薬草が垣間見える

腰を抜かして声も出ない子虫

みやこはその景色の真ん中に静かに立ち、鶴のポーズで止まる

みやこ

…きいいいっ

子虫にはそれが掃きだめに立つ鶴が何かを祈っている象徴的一瞬に思える

やがて炎が屋敷を包む

炎の跳ねる音に我に返った子虫は、みやこの体を抱えて火に巻かれる邸から脱出を図る

途中からみやこは鶴（パペット）、あるいは折鶴の姿になって子虫に抱えられている

気が付けば子虫は折鶴に乗って空を飛んでいる

見下ろす邸が炎とともに崩れ落ちる

行基はその光景を見ながら手を合わせお経を唱え始める

人々がその後ろに続く

呆然と現れた元正上皇もまた手を合わせ経を唱える

行基

ぶっせつまーかーはんにゃーはーらーみーたーしーんぎようー

かんじーざいばーさーぎようじんはんにゃーはーらーみーたー

じーしょうけんごーうんかいくーどーいっさいくーやくー

しゃーりーしーしきふーいーくうくうふーいーしきくきんぐせー

後日の暮園

触れると危ない薬草の世話を慎重にしている与兵衛

三千代が現れる

三千代

与兵衛

三千代

与兵衛

三千代

与兵衛

三千代

与兵衛

三千代

与兵衛

三千代

与兵衛

三千代

与兵衛

三千代

与兵衛

三千代

与兵衛

三千代

精が出るね

おお、この前のぼっちゃんか。どうだった？あれは効いたか？

ああ、よく効いたよ

そいつはよかった。だがあんまり人に言うなよ。別に商売でやってるわけでもねえんだから。

まあ、たまたまぼっちゃんが困ってたから、特別分けてやっただけでよ

わかってるよ…役に立ってよかったよ

こういう危なっかしい薬草を欲しがる連中っていうのは必ずいるからな。本当に、ひとつ間

違ったら人が死ぬから

わかってるよ

…人に使ったんじゃねえだろうな

猪だよ

そうか。まあ熊だってイチコロだ

はい（銭を渡す）

そりゃ前にもらっただろ

うまくいったからね。その分だ

銭なんてどうせいらねえんだ。使う当てもねえし

また頼むよ

は？どうということだ？

きつとあんた。これが天職だ

何言ってるんだ

ひとつ間違えば己の命も危なかつたが



与兵衛

本当に効く薬草っていうのはそういうもんでな。ギリギリのところ毒にも薬にもなる。そもそもこれは俺が撒いた種じゃない。まあ、ついだというか。たまたまここへ来ることになつて。いろいろあつて、もう他にやることもなくなつてな。畑耕して、花や草の世話するのは性に合うんだ。何も考えずに時が過ぎていく…おい！

三千代

(なぜか草の香を嗅いで倒れる)

与兵衛

おい、大丈夫か？何やってんだ！おい、ばっちゃん、しっかりしろ！

崩れ落ちた三千代の体から草が生えてきて花が咲く

かぐや

我らが上司にして時代の寵児、橘三千代の肉体は崩れ落ち、枯れた土壌と同化して、一滴の大地の潤いとなり果てた

三体

♪ここは暮園 寿ぐ呪いの 道しるべ

王宮

うねび

その四年後、長期間にわたる遣唐使の役目を終え、渦巻く海峡を九死に一生の寸前でかわしきり、大陸より帰国された強運の面々が都を訪れた

みみなし

中でも唐の皇帝にその帰国を惜しまれたともいう三人の天才が、王宮に招待され聖武帝への謁見を許された

かぐや

第一の天才は真備といい、難解な専門言語を操り、数ある学問に深く通じて、人知の及ばぬ未来を見通す力を持つと巷の噂

真備

うねび

Destinyネイションを目指す。それが我々に課されたミッションだ  
どこかで見たことある顔。その後のあいつ

もろえ

真備

もろえ・真備

みみなし

真備

もろえ

光明

聖武

真備

聖武

真備

聖武

真備

聖武

真備

聖武

真備

聖武

真備

聖武

玄昉

き、君は、うんず！

そうだそうだそうだ：そうど先生か！

♪懐かしきーあーの頃

と、ひと抱き合う腐れ縁

こうしもこう言ってます。人の生きると書いてじんせいと読む

ん？子牛？子牛がしゃべんの？

しゃべるんじゃないの？唐の国の子牛なんだもの

そんなこと言っていないだろ孔子は

さすがです。正解です。そんなことは言っていない。じゃあ逆に孔子は何と言ったか、帝？

何とって、孔子は色々言っただろうからさ

そう！色々言っただんです。まさに！それをひとつひとつ、聞かないといけないんです、色々

と言うのであればね！そうでしょ帝？そうじゃないとわからないんです一つも。百を聞いて

一つを知るんです

逆じゃない？一つを聞いて：

逆もまた？

うん

逆もまた？

：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：

おしかり？

え？

おしかりーおしかりー（平伏）

何の話だっけ？

てやつ！（かっつてのでなりの気合の声）

うねび

三体

もろえ

玄昉

聖武

玄昉

真備

玄昉

みなし

てんさい

光明

てんさい

光明

第二の天才は玄昉という荒法師、いやでなり！

用務員のおじさん！

玄昉です！恥ずかしながらまたこの地へ帰ってまいりました。帝、ごめんなさい、えっと帝、帝はどなたですか？

朕だが

じゃあ朕さん！朕さんね、私も真備君も人柱だったんですよ。人柱って知ってますか？海の神に捧げる生贄として、船の舳先に括りつけられるんです。裸です。高い波が来たら真っ先に人柱が全身で受け止めるんです。ひっきりなしに波が顔まで来て息もできません。ずっと溺れてるようなもんです。運が悪ければ簡単に死にます。実際だいたいの人柱は航海の途中で死にます。死んだら別のヤツがまた舳先に括りつけられる。船が転覆したらどうなると思いますか？もちろん死にます！括られてるから逃げられない！誰も人柱なんて助けない！いずれにせよ死ぬんです！

（思い出して号泣している）

だから無事に唐の国に生きてたどり着いた時、ありがたくてね。もうありがたくてありがたくて、ひたすら仏に感謝ですよ。一心不乱に感謝の思いで仏の道に仕えましたよ。何が言いたいかと申しますとね、朕さん、玄昉は、胸いっぱいです！（ひと踊り。真備も加わる）こうしてリバイバルの二人にひき続き、第三の天才が聖武帝の前に姿を現した

：（フードで顔が見えない）

おい、どうした？第三の天才よ、おまえは唐の国で何を学んできたのだ？この国に何をもたらししてくれるのだ？

！（懐から何かを出そうとしたように見える）

ひゃー曲者か！

藤原四兄弟がとびかかっておさえようとするが、何かを見て驚いて離れる

フードが取れた顔は疱瘡の仮面顔

懷から出た紙に「天災」と書いてあり、天災はそのまま倒れる

一同咄嗟に口を布でおさえて外に散って行こうとするが

四兄弟はそれぞれの場所で疱瘡の仮面に変わって苦しんで倒れていく

かぐや

うねび

遣唐使が大陸から運んだ災い。恐るべき疫病である疱瘡が都で猛威をふるい、王宮内を直撃  
役人たちがバタバタと倒れていく中、ほんの数日月の間に、あの藤原の四兄弟全員が感染、  
あつという間に帰らぬ人となったのです

聖武

光明

四人全員だよ？一斉だよ。そんなことある？そんなことある？  
取り乱されますな。あの四人だけでない。大勢が死んだのです。仕方ないのです、疫病は人  
を選びませぬ

聖武

いやいやいや、ないよ。ない。こんなこと普通ないよ

高笑いする長屋王と吉備と子供たちの幻霊が現れる

聖武

…バチがあたったんだよ

長屋王

ハハハハハ

三体

ハハハハハ

元正上皇がその幻影の中に立っている

聖武

もろえ

元正

聖武

元正

聖武

もろえ

聖武

もろえ

聖武

光明

アベ皇女が入って来る

アベ

元正

アベ

ひゃあ！（幻影は消える）

これは…上皇様…

大事なのはこれから帝が、何を語られるかです。あなたが揺るがぬ標となつてはじめて、その光を頼りに、民が、国があなたに己を寄せてくるのですから

無理だ…

それが帝たるもの

無理だ。朕は…何を話せばいいのか、何をすればいいのか、全然わからない。こんな時、朕はどうすればいいだろう、もろえ？

とりあえず私なら、寝ますかね？

寝るか。そうだな。ちよつと寝よう。寝れるかな？寝れないかもしれないが…

起きてずっと目をつむってるだけでも、寝てるのと同じ効果があるらしいですよ

そうか、もろえ。そうしよう。起きてずっと目をつむっていよう。少しは楽になるかもしれない（もろえに手を引かれ退場）

みつともないわ。みつともない。甘やかされて育ったからこうなんの

そんなに責めないであげて母上。誰だって、こんな状況には逃げ出したくなる。父上はああ見えて、一番物事の本質が見えている方です

聖武帝夫妻がモトイ皇子を失った頃に、二人にはもう一人の皇女が生まれていた。今や健やかに育ったアベ皇女は若くしてすでに威風漂う、王宮に咲いた華…光明皇后は、このアベ皇女を、ヒメとしては異例の皇太子に据えようと考えていたのだが、しかし…  
真備、玄昉、勉強の時間です！

真備・玄昉

ははっ

アベ

おかえりなさい遣唐使たち。今日は唐の国のどんなことを教えてくれるというの？

真備

アベ皇女。私は唐国の王宮におけるリスクマネージメントについて、そのコンセプトに流れるテーマを掘り起こして、あらためて埋め直してみようかと思っています

アベ

はい

玄昉

私は唐の国で見た巨大な仏像、廬舎那仏というものが今も忘れられません。その思い出話を皇女にお聞かせしようと思います

アベ

はい

元正

この子にも鶴の毒が流れている…

アベが鶴のポーズ

真備

…皇女、そのリアクション、いつもながら謎です

アベ・真備・玄昉

ハハハハハ

アベ

面白いね。面白い。いろんなことを教えて頂戴。どんなに中身がない話でも、知ったこつちやない旅の思い出話でも

元正

この子は希望か、絶望か…

## 6 リバイバル・サバイバル

夏の夕方の暮園 ヒグラシが鳴いている

葉っぱをあおぐ三体

汗を流して薬草の世話をする与兵衛

一人の役人（お面）がこそこそやってきて与兵衛と何やら話す

与兵衛は草を選び、役人に渡すと、役人は紙でそれを慎重に包み、与兵衛に銭を渡して去る

かぐや

よく売れるね

与兵衛

は？

うねび

すっかりお得意さんだ

みみなし

ありやさしずめ、皇后さまのお使いだろ？

かぐや

そりやさぞかし高く売れたことだろう

与兵衛

うるさいぞ

うねび

皇后様は最近とみに、うちの草がご入用に見える。あのお方の…

みみなし

笑顔が恐ろしや

三体

笑顔が恐ろしや

かぐや

いやそれがな、帝がどうも、最近、それなりにお元気を取り戻されたようで

うねび

さりとてあの、笑顔が恐ろしやには近づかぬ

かぐや

代わりにあちこちの女にお手付きをな

みみなし

結果あちこちでお子が生まれてしまったとか

かぐや

その過ちを一つづつ一つづつ皇后さまが拭ってなさるのよ

うねび

ついこないだは健康な男子も生まれたっていうしね

みみなし  
三体  
うねび  
与兵衛  
三体  
与兵衛  
三体  
与兵衛  
三体  
与兵衛  
三体  
みみなし  
うねび  
かぐや  
みみなし  
与兵衛  
うねび  
与兵衛  
かぐや  
三体  
与兵衛

それは困る。皇太子はアベ皇女と、とうとう力づくで決めたわけだしやだよ

でもそのおかげで私たちの育てた暮園の薬草が闇でさばけて俺が育てたんだよ

ああ、闇バイト闇バイト

いい加減にしろババアども、ああ、蟬よりうるせえ（行きかけ）どこ行くの？

市場に行ってくる

何買うの？

何でもいいだろ

買うものなんてないくせに

欲しいものも何もない

だって必要なものは全部ここにあるから

そもそも生きる屍には何も必要ないし

ねえ、何買うの？

あんまり暑いから女でも買いに行くんだよ。おまえらと違って若くていきのいい女をな

やだ、嘘だ、嫌だ、何でそんな嘘つくの？

だからうるせえよ、ほっといてくれ

女なんか死んでも買わないくせに

勝手に決めんな

だって

心に決めた人がいるんだもんね

おまえらまとめて消えろ。とっととあの世へいっちゃまえ



三体  
それが無理なの  
与兵衛 ったく…(暮園を出て歩き出す)

旧都藤原京近くの市場は人でにぎわっている  
歩いていくうちに与兵衛はみやこと似た女とすれ違った気がして振り返る  
与兵衛の目の前の果物屋台の店主が屍女歌人

屍女歌人                      ♪きーっ、きーきっききー  
人々1                      屍女歌人の歌声だ！  
人々2                      何年ぶりに聞くその歌声はいささかも老いさらばえぬ！  
人々3                      死してなお歌声響き  
人々4                      生きてなおその音色にこそ死をぞ知る  
屍女歌人                      亀は何匹、鶴は何羽で鶴亀算

瞬間見失い、人混みをかき分け、慌ててみやこを追いかけて探す  
見物人の輪ができていてその真ん中で汗だくの二人の男が碁を打っている  
子虫と東人である

みやこは子虫のそばにいて、汗をふいたり果物を食べさせたり甲斐甲斐しく働く女房のようである

東人                      なかなかの腕前ですな  
子虫                      いや…まだ習い立ての、ほんの見習いですから  
東人                      それにしては、一分の隙もないとはこのことだ。あなたタダ者ではないな  
子虫                      まあ、難しいことはわかりません

先ほどの果物屋（屍女歌人）に聞く与兵衛

与兵衛

果物屋

あの二人は？

もう朝からやってんのよ。なかなか終わらないもんだから、周りが白熱してきて酒飲んで賭けし始めてさ。初めて見る顔さ。賞金につられて飛び入りで手上げてそれぞれ名乗り出た見知らぬ同士らしいけどこの辺りの方ですか？

うんまあ

最近この旧都の周りには、都落ちしてこっそり身を隠す連中が集まるんだとかへえ

その口ですか？

失敬な。むしろこっちは手柄を挙げて大出世した口だ

ほう。どんな手柄をあげたんですか？

まあそれはね。そんな大した話じゃないんだがどんな話なんです？

もう忘れたよ

思い出してくださいよ

いや、もうだいぶん経ったしね

さすがに覚えてるでしょ

え？…何の話をしてるんだ？

何の話？さすがにわかるだろう、中臣東人  
なぜ私の名を？

子虫 東人 子虫 東人 子虫 東人 子虫 東人 子虫 東人 子虫 東人 子虫 東人 子虫 東人

子虫

おまえの嘘の密告で、長屋王様は殺されたのだ

子虫は剣で東人を斬り殺す

みやこ

さあ、おまえさん、早く逃げなきゃ！

与兵衛

（進み出て）みやこ…

みやこ

え？（動きが止まる）

屍女歌人

♪きーっ、きーきっききー

子虫

何だ？どうした？…誰なんだ？

与兵衛

…変わんねえなあ

声（真備）

おまえもな

さっき与兵衛から草を買ったお面の役人が兵を率いて現れ、子虫を斬り捨てる

みやこ

子虫さん！

駆け寄ろうとしたみやこ、与兵衛が拘束される

光明皇后、アベ、そして真備、諸兄、玄昉が現れる

みやこに近づく玄昉

玄昉

…変わんねえなあ

アベ

この人が？そうなの？

光明

私だって初めて見るのよ

諸兄 本当に…気持ち悪いほど昔のまんまじゃないか

真備 まさかおめえにここで会えるとはな！

諸兄・真備 ♪なつゝかしきゝわゝがとゝもゝ

与兵衛 何が友だ！人さらいの鬼畜どもめ地獄へ落ちろ！おまえらのせいで、みやこは、どんなに辛い目に…

玄昉 辛いなんてこれっぽっちも思っちゃいない。逆に幸せだともな。所詮、鶴だ。ただ生きるために精一杯その場をしのいで生きてるだけだ。辛かったり幸福だったりするのとは周りにいる人間だけだ

アベ なかなか鶴には変わらないのね。警戒してるの？

みやこは葛籠の中に詰め込まれる

与兵衛 おい、やめろ！みやこをどうするつもりだ！

暴れた与兵衛は捕らえられ、お面の役人に棒で殴られ気絶させられる

真備 ああ、あんまり手荒な真似は、ね

諸兄 一応かつての親友だから、ね

玄昉 こいつらがいつ人の姿になり、いつ鶴の姿に戻るのか、その境目は私にもはっきりとはわかりません

光明 気分の問題？

玄昉 かもしれない。もしくはもっと大事な秘密がそこには…

アベ しっ

葛籠の蓋が開こうとしている  
みやこが中から飛び立つ姿勢

みやこ

キーっ！（蓋閉められる）

アベ

鶴になって飛んで逃げるかと思った

真備

そう思いましたね、今ね

光明

ねえ、そのような怪しき者と今の帝を対面させて本当に大丈夫なのですか？

玄昉

そのような者でも、帝のお母上であることは間違いないのです、皇后さま。生まれてすぐに引き離され、帝は母の愛というものを御存知ない。引きこもられた帝の心を取り戻すためには、お母上との対面という刺激が何よりよい効果を

光明

帝の前で突然鶴にでも変わられたらどうすんの？

玄昉

それはそれで大きな刺激に

光明

ないわれないわ。だいたい私はこの人が鶴だなんて、基本的に信じてませんから

玄昉

何にせよ、帝の気が逸ればよいのです

アベ

…私にも鶴の血が流れている。半分の半分だけ

アベが鶴のポーズをとる

光明

あんた、あんまりまともにとりなさんなよ。こんなとんでも陰謀論、一体どんなからくりで仕込まれたものか。何せあの父、藤原不比等の仕掛けだからね

お面の役人がお面をとると顔は不比等にそっくりな男（仲麻呂）

仲麻呂

それでは都へ戻りましょう

光明

よくやった仲麻呂。東人を餌に大伴子虫をおびき寄せるとは、まるでかつてのお父上を見るよう。さすが藤原家復興の切り札

仲麻呂

長屋王邸から逃亡した大伴子虫の行方は以前から掴んで監視しておりました。そこにみやこ様と思しき女がいることも

真備

与兵衛はどうなの？

仲麻呂

皆さまのご親友をまさか成敗するわけにもいかない。だがこの男は色々と知りすぎている。野に放つわけにもいきません。一旦はこのまま都へ連れて行き、どこぞに住まわせ、厳重に監視することとしましょう

一行は藤原京から平城京へと戻っていく

かぐや

この仲麻呂という男はあの藤原不比等に一見似ているが、実は本人である

うねび

藤原仲麻呂は疱瘡で死んだあの四兄弟の長男武智麻呂の子。つまり不比等の孫

三体

と、装っているが実は不比等である

かぐや

頭から何から色々と偽装しているが中身は

三体

不比等である

うねび

その身体は実は折紙でできている

みみなし

我ら生きる屍が丹精込めて折りました

三体

ひひひひひ…うっそー

## 7 だいづつる

平城京に着いた一行  
葛籠から出てきたみやこが、聖武帝と対面する

聖武

玄昉

（若いみやこを見て）…そんなわけないだろ…

驚きはごもつとも。若すぎる！つていうかこれじゃ娘の年といってもいいじゃないかと。しかし帝、世の中すべてのお婆さんが、等しくかつてはピチピチの十代だったのです。お母君みやこ様は三十六年間、山奥の暗い邸の奥の間で病に臥せっておられた。それだけ徹底的に強い陽の光のあたらぬ陰で静かに生きていれば、色々劣化しないんでしょうね。知らんけど…母上か？

聖武

みやこ

…絶対に見ないでくださいね（奥の部屋に入ってしまう）  
しゃべった

聖武

玄昉

はい、お疲れ様でした。帝、今日はここまでです。みやこ様は大変お疲れです。何せ三十六年間、一日も外に出なかつたんです。帝も、これは大変な刺激でございましたでしょう。そろそろお休みいただかないといけません。また明日にあらためて。ということで後のことはこの玄昉にすべからくお任せを（みやこの部屋に入っていく）

元正

…帝はこのところすっかり、誰の目にも明らかかなほどに心身が憔悴の極み、恐ろしい疫病による藤原四兄弟の死がよほどにこたえているようでした。そんな中、長屋王一家の処刑が藤原一族による陰謀であったことが、あらためてまことしやかに噂されました。帝ご本人がどれだけ事件に関与していらしたのか、私にはわかりませんが…

叔母上、朕はつかれているようです

聖武  
元正

「そうでしょうね」と冷たく突き放すような言葉が思わず口をついて出て、その声色が繊細

な帝の心にまた響くのでしょうか。一瞬泣きそうな顔になったかと思うと、次の瞬間には、あの子供の頃に慄いた、オババの帝の恐ろしい、思い詰めた狂人の表情がその瓜二つの面影に浮かぶのです。私たちに見えていたその日の劇的な光景も、そんな帝の目には全く違う風に見えていたのかもしれませんが…

葛籠の中から鶴（パペット）が出てきて聖武帝と対面する先ほどのイメージ

聖武

…そんなわけないだろ

みやこ（鶴）

…絶対に見ないでくださいね（変な声）

現実に戻る

聖武

…そんなわけないだろ…あれが母上のわけがないだろ！あれは何者だ？何のために朕の前に現れたのだ？そうか。そうに違いない。あれは、朕にバチを与えるために吐きだめのよう  
なこの世に降り立ったカミの化身…

聖武はみやこを追いかけて奥の部屋に

御簾の奥で玄昉が汗だくになりながら、紙をすいている大きな折鶴人の絵を描いている

鶴人が紙をすくたびに出来上がったその紙に絵を描いていく

狭い部屋中に玄昉の絵が吊り下げられたその光景は、かつて暮園のボロ小屋での光景と似ている

折り鶴人がみやこに見える時もある

玄昉がみやこと折り重なって折鶴を折っているように見える瞬間もある

玄昉は完成した折鶴の絵を描ききり、みやこは完成した紙を帝の前に



聖武

みやこ

玄昉

群衆

玄昉

あ！

あら、玄昉さんのお友達？じゃあ、目一杯おもてなしをしないとね

うおー！

♪鶴だ、鶴だ。鶴人だ、鶴人が都に禍運びよる！

帝、いい機会のようですから、人ならぬ奴婢としてお仕え申しあげた暮園での日々以来、この玄昉が長年考え続けておりますことを申し上げます。夕暮れの空を飛ぶ鶴は禍を運んでくるのではない。どこか海の向こうの遠くの大地に生えた、命そのものを運んでくるのでございます。その、はじめは凝り固まった命を叩いて煮込んでほぐして乾かし、磨り潰して粉にして、水に溶かして、振りながら慎重にすくいあげて、かろうじて再びひと繋がりになったものをまた乾燥させる。この複雑な工程を効率よくこなすために、鶴が一時的にとる変態形態が人間に似ている、もしくは、人間です。こうして出来上がった真っ白な力ミを、鶴は自らの姿に折り上げて、命のよりどころとなる新しい真っ白な肉体を作り上げ、その新居へいわば魂を遷都するのです

玄昉？

これぞ鶴千年の命の秘密。命は永久にひとつに繋がり、千年の時の前に、一瞬一瞬の穢れも悲哀も、忘却の彼方へ浄化される。鶴は今ここにとどまらない。どこまでも時の彼方向き続け、長い目で明日へ向かって命を届け続けるのです

何を言ってるんだ玄昉？

わかってます。自分でも何を言ってるのかわからなくなってます。こんな話、しかもこんな格好で、人にするのは初めてなんです

：よくはわからぬが  
はい

聖武

朕はこれ、カミでできているのか？

玄昉

そのカミを折り上げることこそ、人生ではないでしょうか（折り鶴を渡す）

聖武

♪命寿ぐ ゆうべの夢♪

帝は玄昉の描いた折鶴を母として愛でる

一方与兵衛が監禁されている牢の前に真備がいる

真備

帝はすっかりマザー鶴の不思議な魅力にはまったみたいでよ、毎日朝から晩まで閉じこもってみやこ様べったり。それ以外の他のことにすっかり興味を失われた。全部あの玄昉のせいよ。人間以下の奴婢から国一番のエリートになっちまって、今じゃ鶴を自在に操って、すっかり帝の振付師よ

与兵衛

おまえだって同じだろ、うんず

真備

俺はそもそもが不遇のエリートだったんだよ。いつかスピノフで物語ってやる。俺の人生は俺を主役にして今も絶好調に回ってるんだぜ。まあ玄昉と俺様、二人の非凡なエリートが、とんだ時代のダブルブッキング

与兵衛

相変わらず何を言ってるかわかんねえ。面倒くせえからもう消えろ

真備

まあそう言うな。つまり俺は今まあまあ偉いんだ。そうど先生だって本質はサラブレッドだ。この二人の親友なんだから、おまえはもうこんなところにいる必要はない

与兵衛

解放してくれんのか？

真備

ただし条件がある。約束しろ。もうあの鶴女には二度と近づくな

与兵衛

は？

真備

素直に暮園へ帰って、一生のんびり草でも育てて暮らせ

仲麻呂が現れ牢から与兵衛を出す

仲麻呂

真備

仲麻呂

真備

与兵衛

仲麻呂

真備

真備殿、その前にこの与兵衛には先約がございましてな。さあ行くぞ

ちよっとお待ちを仲麻呂殿。聞いておりませんな。先約とはどういう？

皇后様直々の内密のお役目をこの与兵衛はすでにいただいております。な

そうなのか与兵衛？

：

少々、遅かったようですな

どんな役目だ、与兵衛？

光明皇后が現れる

光明

真備

光明

真備、おまえのいう条件ではこの男はもう鶴女に二度と会えぬ

皇后さま

だが私の頼みを果たせば、鶴女はこの男の元へ帰ってくるんだよ

聖武、元正、アベ、玄昉が王宮の一室にて

元正

ある夜の事、皇太子であるアベ内親王は玄昉を伴い、帝と私を前にして、廬舎那仏についてのお話をなされました。玄昉が唐の国にいた時に目にした巨大な石仏です。ところが玄昉は体調が思わしくないのか、さして暑くもないというのに、大粒の汗を額に浮かべて、肝心の石仏の説明がところどころ要領を得ません

玄昉

…ええ…つまり…その…廬舎那仏様と一口で申しますが…ええ…それはつまり…つまりと

ころ…ちゅまる…っちゅう…っちゅう…っちゅう…

え？

宇宙

宇宙？

…はい…っちゅうの…ちゅうっす…すん…ちゅうっす…すん…っちゅうの…ちゅっす…すん…

え？

宇宙の中心と

宇宙の中心

…だ…っちゅうの…

だっちゅうの？

…っちゅうの…ちゅうっす…すん…で…あいを…っけぶ…だ…だっちゅうの…だ…だい…ぶっちゅう…だい…だいぶ…っちゅう…

大丈夫か玄昉？（玄昉は懷から煎じ藥を出して水で飲もうとしてこぼす）

これは大丈夫じゃないでしょう、明らかに

でも言っていることは、一度聞いたのでわかります。帝、玄昉はこの寧樂の都にも宇宙の原理の中心たる廬舎那仏様を、すなわち大仏様を建立してはどうかと言っておるのです

大仏様…

それより玄昉の様子がおかしくはないですか？（玄昉はさらに草を出して噛みはじめ、ぶつぶつと宙に向かってしゃべり出している）

待って叔母上、皇太子、大仏様を建立するとは、それはつまり…

巨大な祈りを形にするのです

巨大な祈り…

聖武  
アベ  
聖武  
元正  
聖武  
アベ  
元正  
聖武  
玄昉  
聖武  
玄昉  
聖武  
アベ  
聖武  
玄昉  
聖武  
アベ  
聖武

アベ

あるいは父上、巨大な贖罪を形になさるのです

聖武

巨大な贖罪…

元正

誰か、ある？玄昉、今宵はもうよい。そなたは下がって…

玄昉

帝、皆さま、お伏せください！巨大な指が、天上より巨大な指が、我らの命をおつまみに…

指が天から下りてきて玄昉の首をつまんで引きちぎって天へ上がっていく  
途中でその指から首が落ちる  
それが地上に落下する前に、飛び立った鶴が首をくわえて飛び去る

元正

その死の間際、玄昉がどういう理由で薬草を服用していたのか、その薬草をどこから手に入るようになったのかは今となってはわかりません。ただ恐らくはそのせいで、最後の瞬間、彼の眼には我々には見えない何か恐ろしい幻影が見えていたようでした  
その功で、与兵衛はついにみやこを自らの手に取り戻した

かぐや

与兵衛とみやこが暮らす暮園のボロ小屋  
銭を渡して一礼して小屋から顔を隠した（いつものお面）仲麻呂が行く  
与兵衛は銭を数える手をふと止めて、夕暮れの空を見つめる

みやこ

（奥の部屋から疲れた感じで出てきて）与兵衛さん、お友達は？目一杯おもてなしをしないとね

与兵衛

いや、いいんだ、みやこ、もう帰ったから

みやこ

そうなの？そりゃ残念だ

与兵衛

それよりおまえ、疲れてんじゃないか？

ありがとよ、おまえさん。だが、ちよいと仕入れに行ってくるよ  
…俺が行くから  
そりゃあんたにや無理だよ。私がやつとくからさ。それより町へ行つてきなよ。はい、今日  
はこれだけ（紙束を渡す）  
みやこ…もう、これ、いいんだよ  
え？  
銭なら俺が稼ぐ。おまえのために、俺は何でもやるんだ  
…じゃあ私は？  
何もしないでいい  
そんなわけにはいかないだろう？  
ただ俺の傍にずっといてくれればいいんだよ  
…私だって、生きて行かなきゃいけないからさ  
え？  
（折り鶴を折りながら）あっちの時とこっちの時を繋ぐのに、そりゃあ必死の毎日でさ…  
みやこ…  
疲れてる暇もなくてさ  
行っちゃまうのか？  
振り返る余裕もなくてさ  
だつたら何で、最初に会つたあの時、何であの時、うちに来たんだよ？  
…そりゃあんた、恩返しだよ  
みやこ…  
千年も生きるからにはさ、生きてることに、目一杯、おもてなしをしないとね  
みやこお！

小さな折鶴を与兵衛に残し、みやこは与兵衛の目の前で鶴（折鶴）になって飛び立っていく  
同じ鶴を帝も目撃する

聖武

お母さん！（鶴のポーズ）

元正

傷心癒えぬ帝は、その鶴を追いかけて、誘われるようにはるか遠くの地へフラフラと旅立たれます。まるで覚めない夢の中を彷徨うように、あっちへこっちへ、そんな定まらぬ帝を標にして、都がまるごと彷徨う帝を追いかけた

聖武

朕はこの、朕の背をどこまでも追いかけてくる呪われた物語から抜け出したいのだ。そして朕の物語を一朕からやり直したいと思うのだ

光明

いちちゃん、いちちゃん！何を言ってるのオビト？帝とは大勢いる中のいちちゃんではないのです。

聖武

ちんこそ世のすべてなのです。いちちゃんどころかじゅっちゃん！ひゃくちゃん、いえせんちゃん！まんちゃんおくちゃん！ちようちゃん！さあ来たちようちゃん！ちようちゃんちようちゃん！

仲麻呂

ちようちゃんちようちゃん！…祭りだ、祭りだ！ソレ！今宵は祭りだ！わっしょい、わっしょい！遷都だ遷都だ！引っ越した！ちようちゃん行列！ソレ、お待たせ！せんとくくんは、いい

みやこ鶴に先導されて引っ越し遷都の鼓笛隊が二代目せんと君こと仲麻呂を先頭にあちらこちらを行き来する

アベ

聖武

そんなヤケクソ気味な父が最初に都を移した先はあの橘諸兄の地元、恭仁（くに）京でしたそこに行けば朕もよく眠れるのだな、もうえ

諸兄

アベ

何せ私が地元にいる頃は、毎朝寝坊して、お母さんに怒られてばかりでしたからね帝、いくらくよく眠れたところで、やがて目覚めるのです

諸兄

ただ少なくとも、夜型から朝型に変えた人で、元に戻すって言うてる人は聞いたことがありませんね

聖武

よし！そこだ！そこへ行こう！せんとくくん！

仲麻呂

は〜い

アベ

だが父の心身にまわりつくモノは、そう単純なモノではない。早寝早起きでも、帝の気分は一向に好転しない。私は気分転換にと、かつて玄昉が語った廬舎那仏を御本尊とする難波の寺へと父を誘いました

聖武

（仏像の光るのが帝の顔に反射する）おお、これが廬舎那仏か…何と…何と有難い…（異常な涙を流す）

アベ

そうして滂沱の涙を垂れ流す父は何だか一氣に年を取ったように見えました…それから思

聖武

い余った父は勢い余って都をここ難波に遷都します

仲麻呂

は〜い

光明

（アベに）あなたあんまり帝に引きずられないようにしなくちゃだめよ。つられてあなたまで病氣になったらどうするの？もうあの人は完全にアレだから。あなた皇太子なんだから、そろそろ準備しときなさいよ。忘れないで。あなたは藤原の王になる約束の子なのよ

アベ

（鶴のポーズ）

ちよつとそれももう本当、やめなさいって！

アベ

約束の子…そう呼ばれた王たちこそ、この百年の呪いの源だった…

元正

でもみんな、星の如き白い光に包まれた、美しい天子たちでしたよ（一氣に老いている）

アベ

大叔母様…

元正

あなたもそうね

アベ

…この元正上皇の存在が、帝たる血筋を継ぐ者がすべからず、呪いの宿痾から決して逃れる



聖武  
仲麻呂  
アベ  
屍女歌人  
アベ  
聖武  
三体  
聖武  
アベ  
聖武  
アベ  
元正  
聖武  
アベ  
真備  
アベ  
行基

ことができない生きた証だ。この方ほどの若き志と強い決意を持っても、その人生は都から逃げることはできなかったのだから

せんとくくん！

はゝい

…そしてこの狂った帝が最後に遷都を宣言した先が淡海、紫香樂（しがらき）

♪滴る心地 紅の

恐れながら父上、これでは結局、一朕からやりなおすどころか、同じ物語の冒頭に戻ってしまっただけではないですか？

しっ！お母さんがまた飛び立つよ！

こうして季節が巡ると鶴はまた故郷寧樂へと帰ってくる

せんとくくん

結局帝は平城京に戻り、百官を集めてこう宣言した

だっちゅうの…だっちゅうの…だいぶっちゅうの…だいぶっちゅうの…

父上…誰か！誰か水を…（清廉の滝の音）

この養老の水を帝に

だいだいだいだい、だい、だいぶっちゅうる！

こうしてここ寧樂の地にて大仏建立が宣せられ、真備が計画の陣頭指揮を執ることとなったこの国家的一大プロジェクトの成功こそは、この国が新たなフェイズに入るためのイニシエーションであり、まさに人間精神のレボリユーション！

とち狂った父聖武帝がはた迷惑な放浪の果てに辿り着いた、巨大な祈りと贖罪の一大国家事業。大量に必要な現場の工夫を組織するために荒野の僧、あの行基が呼ばれた。病に伏した元正上皇たつての願いであつたという

そりゃ伝助、おまえの頼みやさかい、わしも最後の太仕事やと思うて、やるけどもやな、疫

元正  
行基

アベ

行基

アベ

行基

アベ

行基

アベ

病に貧困、飢饉に大地震。ただでさえ世はすでに釜茹で地獄や。そこにおまえさんらは、さらに熱湯注ぐんや。そのべらぼうな工事のために、一体いくつの命が失われるやろな。仏様を鑄造するために注がれる熱い熱い赤銅の熱湯、それと同じだけの量の熱い熱い血と涙がこの大地に吸われていくやろ。それでもやるけどもな。何でか？一つには、作るものが他ならぬ仏様やからや。どんなに地獄でも、仏様がこの宇宙の中心にはいる、そのことを皆が心に刻む大事な機会やからや。それが祈りやからや。わしらは祈る。祈り続ける。命は次々に失われていったとしても、また残った命がその祈りだけは明日へ繋ぎ続ける。大きな大きな仏様の顔をその目で仰ぎ見ながらな

そして行基様、もう一つには？

もう一つには、それが元正上皇様、あなた様の、逃げることなく赤銅の地獄を一生背負ってこられた他ならぬあなた様の願いだからでございます。それが果たして、ほんの一滴にすぎなくとも、清廉の滝より落ちる、澄んだ水をこぼすわけにはまいりません。その水は我らすべての命を潤す一滴の水なのだ。これもまた、明日へ繋ぎ続ける我らの祈りでございます。元正上皇は大仏の完成を見ることがなく旅立たれました。鶴は飛び立ち、夕空の向こうへ去っていくけれど、人の命はどこへ去っていくのだろうか？

恐れながら…

何？

伝助の水はきつと、あなた様の内に

え？

さあ、そろそろ大仏様のお姿も見えてまいる頃ですかあ

そう言い残して行基様もこの世を去りました。澄んだ思いを繋いだ人たちの命は立て続けにどこかへ去りやがて三笠の森の木々の向こうに、まだお顔になりきらぬ、大仏様の面影が見えてきました

大仏のシルエットが遠くに見える（実際は遠くを見ている）

一同

おおお…

真備

結構なりアクションまことにありがとうございます。本日プレオープン公開ということで今工程の七割程度までできてます。この後…

聖武

真備くんさ、真備君さ、何かこう、ちよつと思つてたのと違うんだよね

真備

あ、そうですか、はい

聖武

もっと顔がね、もっとこう、まず口が突き出てるんだよ、簡単に言えばね。思ってるより結構出てるんだよ。ともすれば尖ってるの。先が。うん。そうじゃないと虫とか捕れないしさ、うん

真備

帝、廬舎那仏様の話ですよ？

聖武

だから、とにかく顔がもっと小さいのよ。思ってるより全然小顔。それだよ、そこ。もう本当だね、小さいんだわ、頭が。つまり脳？

真備

…イエス

聖武

脳？

真備

イエス

聖武

脳？とにかくあれが。だから難しい事は考えられないのよ。しょうがないじゃない？真備君さ、ちゃんと修正して

真備

修正イエス

森林越しに大仏のシルエット（セット）が見えてくる

諸兄      おお、だいが進んだな、うんず君、いよいよ完成も見えてきたか？  
真備      果たしてこれが帝のご希望イメージに沿う大仏様なのかどうか…  
諸兄      うーん…だいが、鶴だな  
真備      だいがそうだね  
諸兄      これ、だいがつるだ  
真備      だいがつるだね

だいがつるを見ながら最期の力を振り絞って鶴のポーズをとる聖武帝

アベ

屍女歌人

その大仏様の完成を待たずして、父聖武帝もあの世へ旅立ちました。帝の座は皇太子のこのアベが引き継ぎ、平城京最後の女帝孝謙として即位。大仏様の完成を見届けました  
♪春すぎて夏きにけらし白妙の衣干すてふ天の香山

大仏落慶法要

鶴のポーズを刻む孝謙

光明皇后とともに元明、元正、文武、吉備、長屋王、橘美千代そして持統の影が居並ぶ  
皇后ミヤコの姿も見える

暮園を去り旅に出た与兵衛がそのダイブツルの景色を目撃し、天啓に打たれる

孝謙

しばしの時が経ち、ある一人の若い僧が私の前に連れてこられました

仲麻呂が与兵衛を孝謙帝の前に連れてくる

孝謙

仲麻呂

群衆  
仲麻呂

仲麻呂によれば、私が揉め事もなく、至極穏やかに女帝に即位した陰で、その男が障壁となる雑草を根気よく間引いてきたそうです。母光明の命だったのでしょうか。ところが男は大仏様を一目見るなり、何かを思い詰めて出家し、突如野に彷徨う僧となりました。仲麻呂は知ってはいけないことを知りすぎたその男を密かに亡き者にしようとも何度も暗殺を試みますが、男は無類の頑丈ぶりを発揮してしぶとく死なない。死なないどころか、いつまでも若くて質実剛健。その目はギラギラと生氣に満ちている。しかしついに、男は仲麻呂に屈し、その命を差し出すことを決意します。その代わりにすべての罪を帝の前で告白したいと言う。斬っても斬れぬその男を仲麻呂はどうとう止めることができず、その日、私に謁見した与兵衛というその男は、ここまでの数奇極まる鶴と絶望の物語のすべてを私に語ったのです。そして目の前でその命を絶とうと何度も何度も自らの体刃を突き立てるのですが、どうしてもどうしても、死ねない。男はひとしきり焦りまくって、怒りまくって。拳句にひとり泣きじゃくって、やがて野に彷徨う僧の顔に戻りました。(滝の音) 滝の音が聞こえてきて、私の目からは命の水が流れました。ああこれは、元正の大叔母様が養老の地より繋いでくれたあの水だ。遙か遠くの地より、空を渡ってこの清き水をもたらすものこそが帝と呼ばれるべき者なのだ。それは生きることへの恩返しなのだ。私は悟りました。百年にわたって王家を追いつめてきた、すべての呪いを断ち切るには、この男にこそ帝の座を譲らねばならぬと！そうしてこの女帝は、どこの馬の骨ともわからぬ与兵衛という男に道鏡という立派な名を与え、自らの跡継ぎに据えようとなされた愚行がもとで王宮の者たちの信頼を失い失脚、結果、平城京は縁起の土地として捨て去られ、時代は藤原氏千年の栄華、平安京の時代へと……

仲麻呂  
は……い！

繰り返される遷都の光景

しかしそれは皆すでに死んだものの影である

行進が終わると人々は屍となって倒れる

仲麻呂一人が生き残り、かつらを取ると不死身となった不比等の姿

不比等は京都へ去り、以後不死身の藤原の時代が千年続く

### 三体

♪滴る心地 涙目の 皺も割れゆく 千歳雨 沁みて潤う 鶴千年亀万年

### 屍楽人

今やこの平城京は時の彼方に忘れ去られた廃墟にございます。かつてその縁起を歌い語りし、生死の狭間に漂う屍たちの姿ももうありません。この地にはもう歌い語るべきものが何も残っていないからです（眠る）

### 三体

♪ここは暮園 寿ぐ呪いの 道しるべ

♪鶴千年亀万年 人間五十年

掃きだめのように折り重なる醜い屍の隙間に  
気高い鶴の姿が一瞬見えたような気もする

おわり